

**ローカルから温かいお金の流れを創ろう！  
～ローカル、若者、いのちが主役の時代へ～  
(2019. 11. 11)**

**山陽新聞創刊140周年記念連続シンポジウム  
—「第3回 お金と地域の新しい関係」—**

**(一社)場所文化フォーラム名誉理事  
ローカルサミット事務総長**

**(一社)地域循環共生社会連携協会代表理事  
南砺市政策参与  
ぴあ(株)常務取締役  
吉澤保幸**

# 本日の講演要旨

1. 地域創生のアプローチを振り返る！  
—昭和を継承した平成の地方創生の問題点
2. 我々の取組みからのアプローチ  
—地方再生の4つの連立方程式！
3. 新しい金融変革の潮流  
—SDGs・ESG金融とローカルファンド・インパクト投資
4. ローカルからの温かなお金の流れ  
—新たな100年起業の創出へ！

# 自己紹介

1955年新潟県上越市生れ 1978年東大法卒、その後日本銀行で20年勤務を経て、2001年2月～ぴあ(株)役員、現在常務取締役CCO

(一社)場所文化フォーラム名誉理事 ローカルサミット事務総長 税理士

(一社)地域循環共生社会連携協会代表理事 (一社)グリーンファイナンス推進機構監事 NPO法人ものづくり生命文明機構常任幹事 星槎大学大学院客員教授 PSI(株)取締役 南砺市政策参与 上野村アドバイザー 高山市経済観光アドバイザー他

(一社)場所文化フォーラム等を中心に、地域での「温かなローカルマネーフロー」の具体化を図りつつ、2008年以降「ローカルサミット」の毎年開催を通じ、全国の地域活性化活動の連携によるローカルからの日本再生に注力

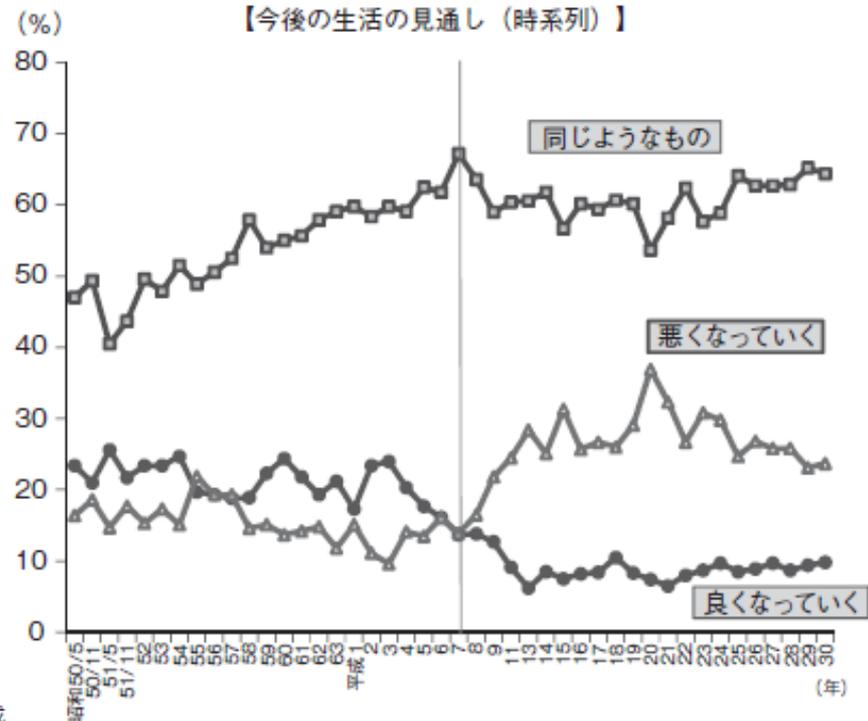
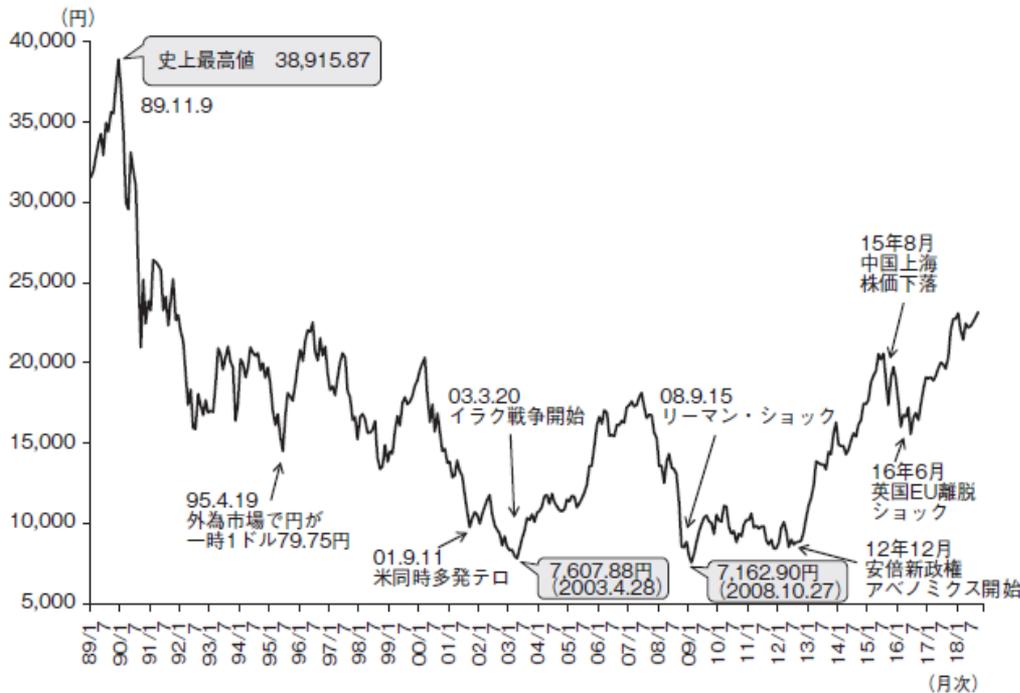
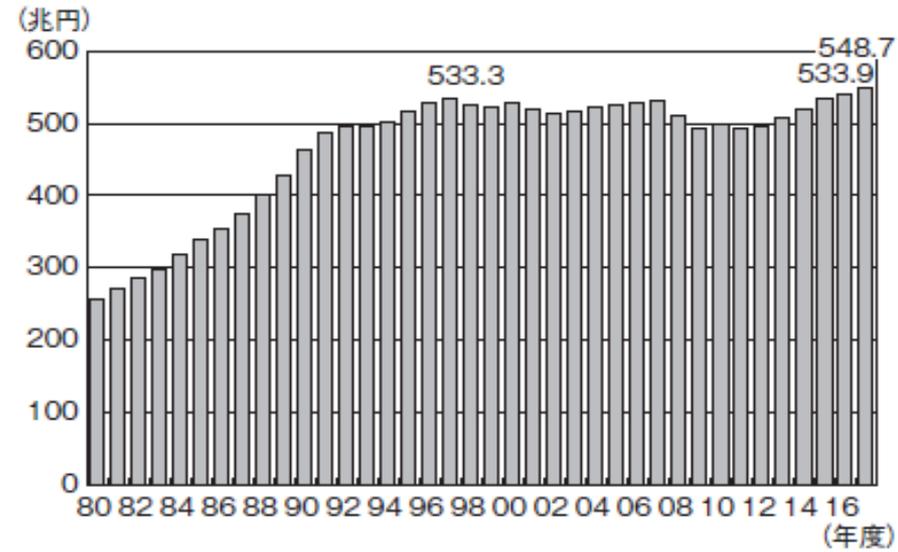
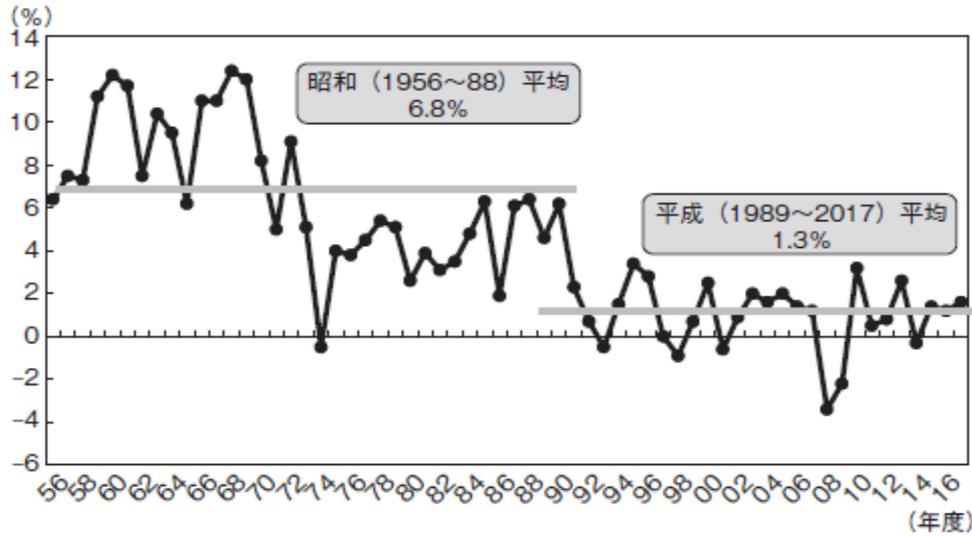
環境省が提唱する「森里川海」プロジェクト等の推進を通じる「地域循環共生圏」の創出とESG金融等の推進による「環境・生命文明社会」創出に向けた活動を積極的に展開中。

著書:「グローバル化の終わり、ローカルからの始まり」(2012、経済界)

「生命文明の時代」(安田喜憲他編、2019、オンデマンド出版)

**平成時代の地方創生のアプローチを  
振り返る！**

# 平成の日本経済社会の各種指標(1)



(注) 月間平均

出所: 日本経済新聞社「日経平均プロフィール」等を基に作成

# 平成の日本経済社会の各種指標(2)

## 製造業、サービス業の動向

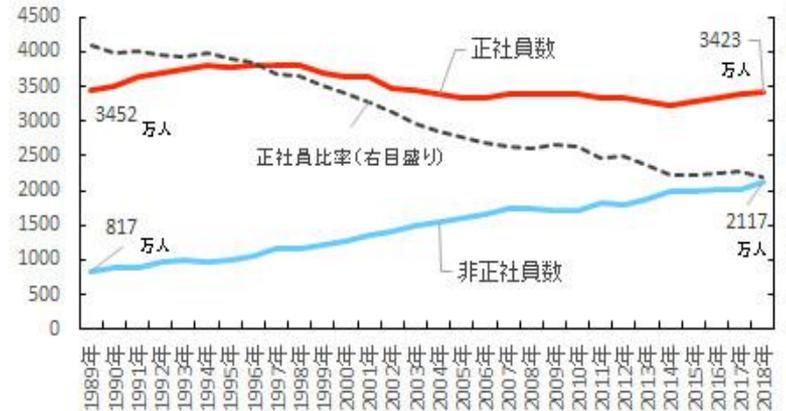
1989年=100



## 正社員、非正社員の推移

(%)

単位:万人



出典:労働力調査(総務省)より作成。なお、2001年までは「労働力調査特別調査」の各年2月期、2002年以降は「労働力調査詳細集計」の1~3月期の値を使用した。  
正社員比率は、「正規の職員・従業員」と「非正規の職員・従業員」の合計に占める割合を示す

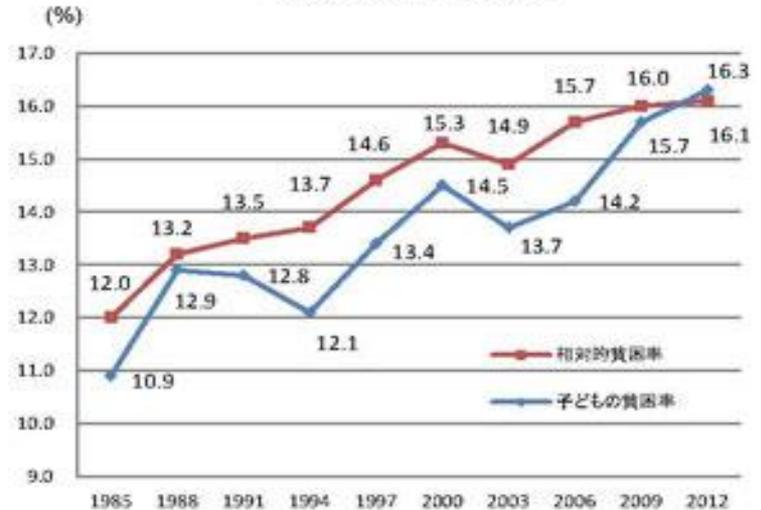
鉱工業指数(経済産業省)、第3次産業活動指数(経済産業省)より作成。1989年を100とした

## 金融資産の有無(保有していない世帯)



(注)金融資産には、預貯金のほか、有価証券、保険、その他金融資産を含む  
(出所)金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査(平成25年)」

## 相対的貧困率の推移

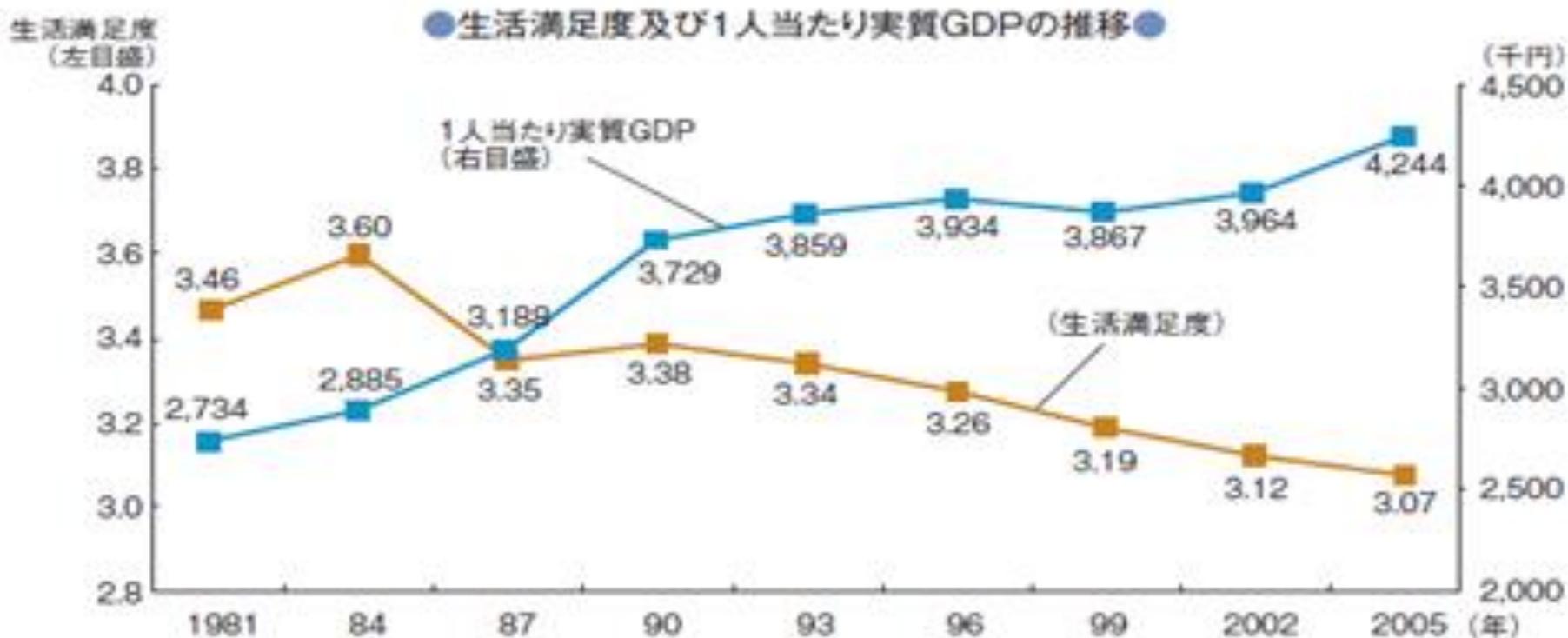


出所:厚生労働省(2011,2014)「平成22年、平成25年 国民生活基礎調査 結果の概要」

# 先進国での「幸福のパラドックス」

もはや日本の幸福度は、お金・成長(GDP)では計れない  
ー平成20年度国民生活白書より

第1-3-1図 生活満足度は上昇していない



- (備考) 1. 内閣府「国民生活満足度調査」、「国民経済計算確報」(1993年以前は平成14年確報、1996年以後は平成18年確報)、総務省「人口推計」により作成。
2. 「生活満足度」は「あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。(○は一つ)」と尋ね、「満足している」から「不満である」までの5段階の回答に、「満足している」=5から「不満である」=1までの得点を与え、各項目ごとに回答者数で加重した平均得点を求め、満足度を指標化したもの。
3. 回答者は、全国の15歳以上75歳未満の男女(「わからない」、「無回答」を除く)。

# 私の歴史認識と地方創生の意味

リーマンショック(2008)と東日本大震災(2011)

を経て、文明の転換期に直面！

＜人口減少＞↓＜自然環境制約＞

「グローバル資本主義」の行詰り、

日本の戦後70年間の「物質文明」追求の見直し



「お金」を資本の論理から「いのち」を繋ぐ道具へ

「国民国家とグローバリゼーション」から

「志民・ローカル」による「新たな暮らし方」へ

「集権・依存」から「分権・自立」へ

# 持続可能な社会に向けたパラダイムシフト①

## ■ 持続可能な開発目標 (SDGs) の採択

- 2015年、国連総会でSDGsが採択。
- 2030年の世界目標。17ゴール、169ターゲット。
- SDGs達成には、**環境・経済・社会の統合的向上**が必要。

## ■ SDGs達成に向けた日本の取組

- 2016年、「**SDGs実施指針**」を決定。
- 2017年、「SDGsアクションプラン2018」を決定。
- 自治体・企業でも、SDGsの取組が進展。

SDGsの17のゴール



資料：国連広報センター

「SDGs実施指針」の8つの優先課題

<p><b>①あらゆる人々の活躍の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援 ■教育の充実</li> </ul>	<p><b>②健康・長寿の達成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応</li> </ul>
<p><b>③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上 ■科学技術イノベーション ■持続可能な都市</li> </ul>	<p><b>④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組 ■質の高いインフラ投資の推進</li> </ul>
<p><b>⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進 ■気候変動対策 ■循環型社会の構築</li> </ul>	<p><b>⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源</li> </ul>
<p><b>⑦平和と安全・安心社会の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進 ■閉鎖構築・復興支援 ■法の支配の促進</li> </ul>	<p><b>⑧SDGs実施推進の体制と手段</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■マルチステークホルダーパートナーシップ ■国際協力におけるSDGsの主流化 ■途上国のSDGs実施体制支援</li> </ul>

資料：持続可能な開発目標(SDGs)推進本部

# 持続可能な社会に向けたパラダイムシフト②

## ■ パリ協定を踏まえた世界の脱炭素化

- パリ協定の「2℃目標達成」のため、**21世紀後半の温室効果ガス排出の実質ゼロ**を目指す。
- 自動車政策やエネルギー政策など多くの先進国・途上国が**脱炭素社会**に向けた取組を実施。
- 多数の民間企業が独自の中長期削減目標を設定。金融分野では**ESG投資が拡大**。

## ■ 気候変動の影響への適応

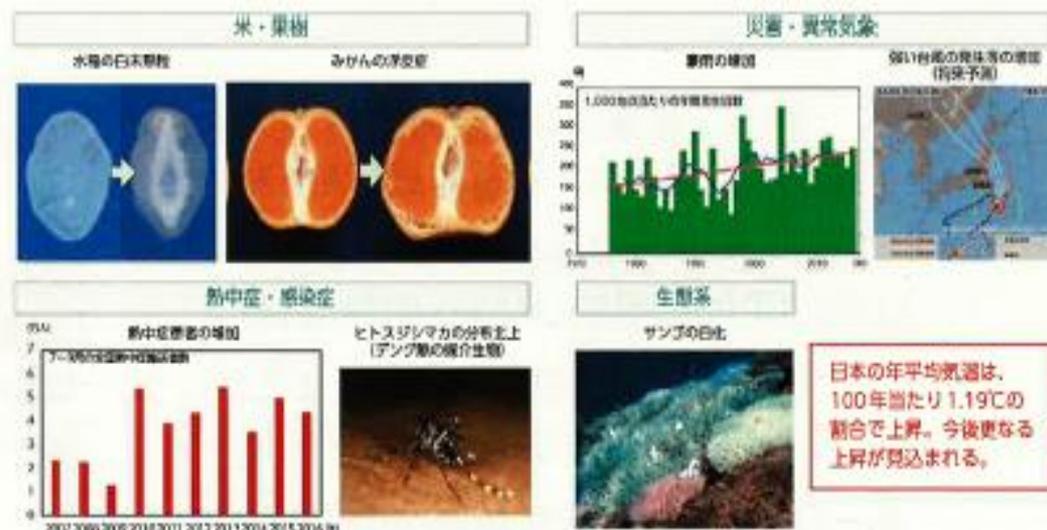
- 異常気象など**気候変動による影響が顕在化**。
- 2015年11月、「**気候変動の影響への適応計画**」を閣議決定。
- 「気候変動適応情報プラットフォーム」や「地域適応コンソーシアム」を通じて、自治体等を支援。
- 2018年6月、「**気候変動適応法**」が成立。

COP23閣僚級セッション  
中川環境大臣ステートメント



資料：環境省

我が国における気候変動の影響



資料：農林水産省、気象庁、消防庁、国立感染症研究所、環境省

# 昭和～平成の地方創生の問題点

●**昭和**；復興～高度成長～福祉国家／国富増強

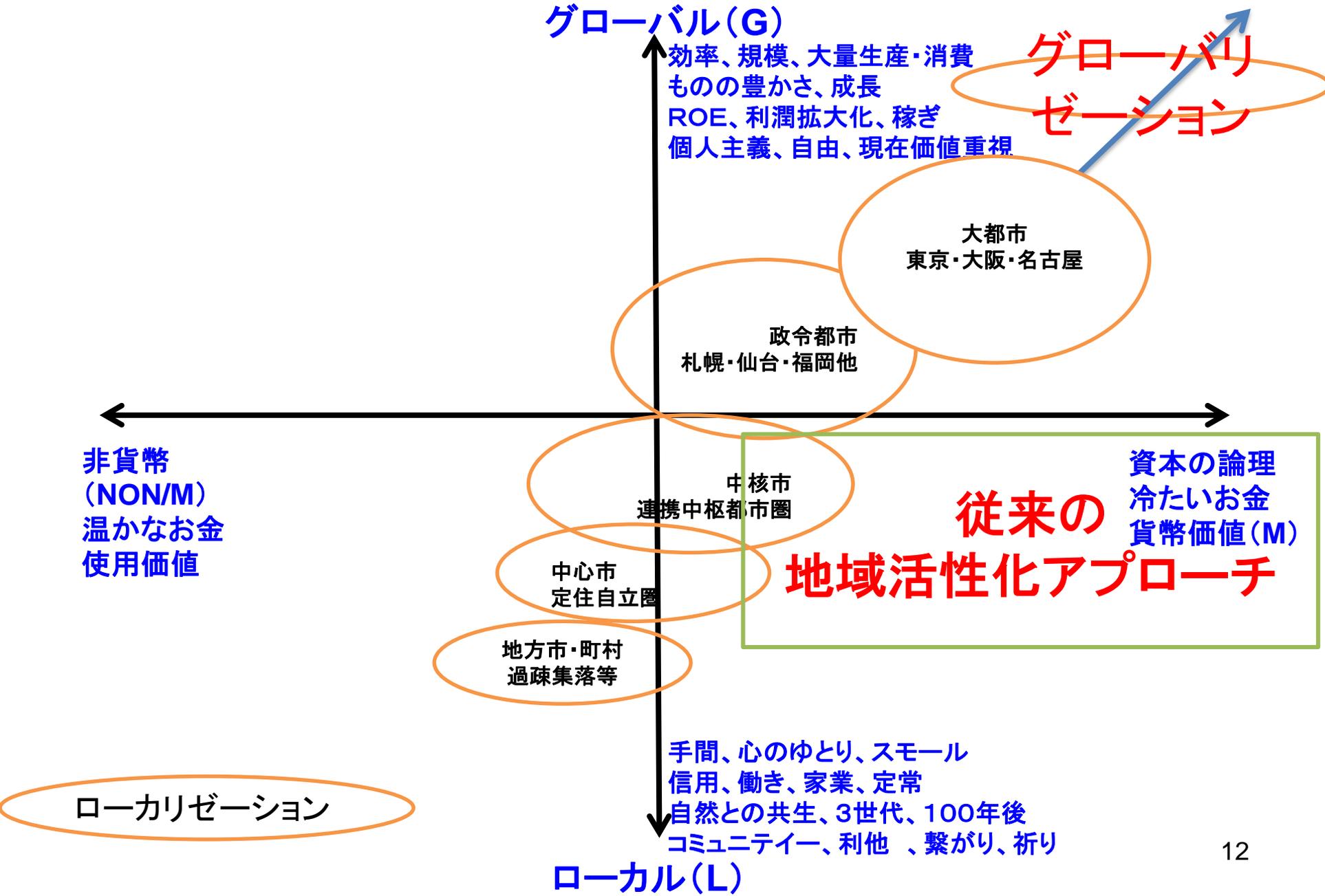
⇒人口ボーナス時代からバブルへ突入

●**平成**；自由化・国際化・グローバル化の一方  
で、人口オーナス時代、低成長、地域崩壊が漸次進行  
⇒少子・高齢化、格差拡大等社会問題が表出！

↓

そうした中、平成時代は、昭和の経済・社会・金融課題  
(バブルの後始末も含め)に対して、**グローバル化軸、  
効率化軸、国・上から目線(行財政改革等)**で対処して  
きたことで、上記諸課題の根本解決を引き延ばし、  
この間、**地域・住民不在の感**は否めない！

# 50年、100年後の地域はどこに向かうのか？



**我々の取組みからのアプローチ！**

# 場所文化フォーラム(2003年8月)結成と実践へ

## ■「場所文化フォーラム」の目標

「場所文化」の創造によって、人々の新たな交流(地方と都市の新たな関係性の確立等)を促し、場所への資金流入と域内での資金循環の新たな仕組みを構築し、場所の自立(経済の活性化とコミットメント人口の増加、持続可能性の確保)を目指す。

## ■「場所文化」の戦略的意義(現代社会の変革のキーワード)

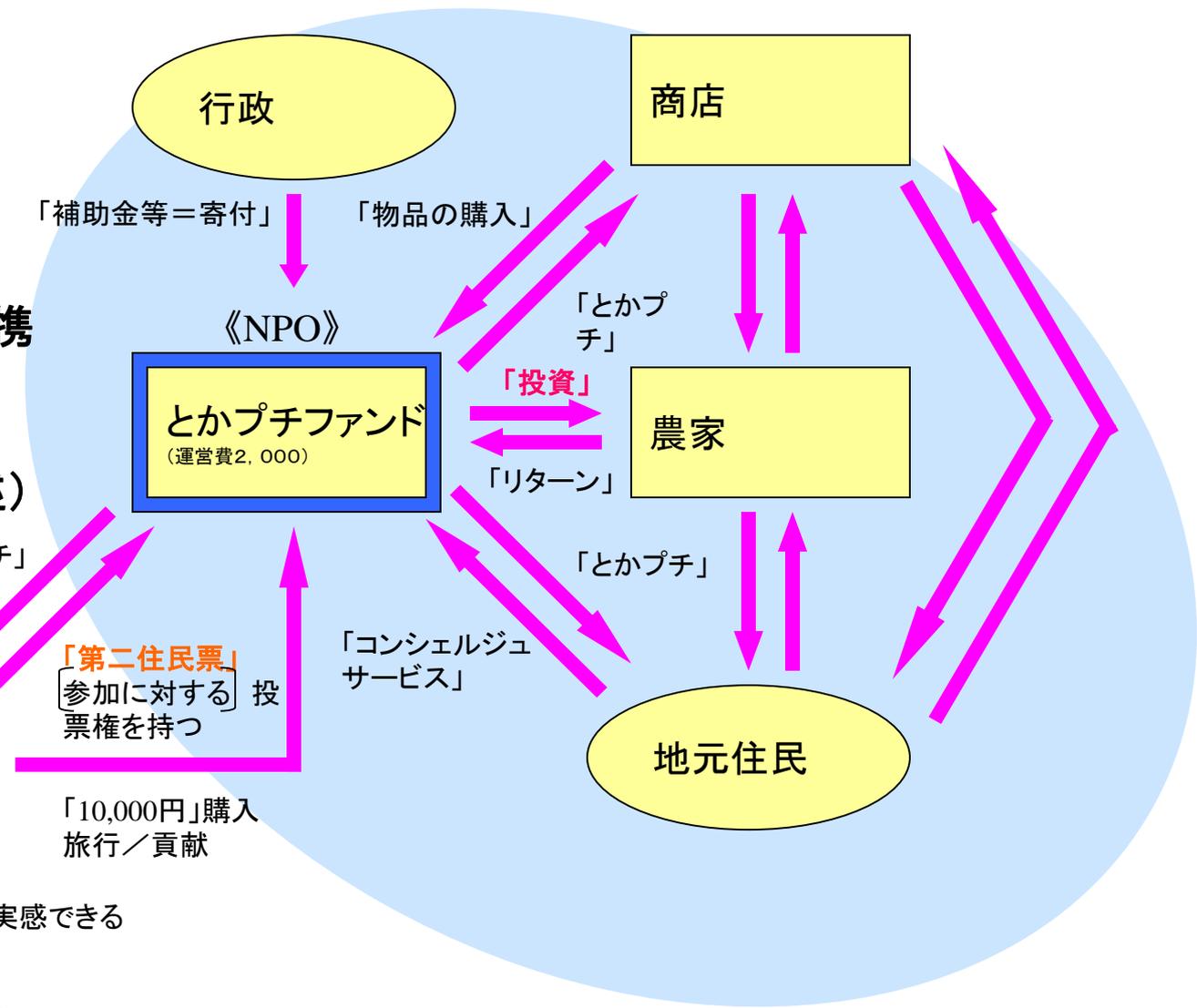
「場所文化」とは、行政区画に拘らず、自然に包摂された一定のローカル空間(場所)において営まれる人間の歴史的生活とそこでの自然との向き合いの中で紡ぎだされた言葉、景観、価値観、生活様式など(言わば風土)を言う。

「場所文化」は、多様かつ自然と共生する価値観への転換を意味する。

# 場所文化フォーラムの問題意識—志金の新たな流れの創出

●2002～3年当時検討した  
地域通貨スキーム  
＜「とかプチ」構想＞  
・域外住民の参加  
・投資の実施  
・但し、農商工・観光との連携  
エンジンの構築が必須

↓  
●「とかちの・・・」モデル(後述)  
に応用  
i 現物配当  
ii 継続投資  
iii 他地域連携



- ★地元のvalueを実感できる
- ・畑／自然保護
- ・特別なツーリズム
- ・各種サービス・特産品開発

# 2002年以降の地域活性化に 向けた取り組み

## 1. 場所文化の創造

### (埋もれた地域資源の再興)

—地域と都市の新たな関係性の構築と  
「ローカルマネーフロー」創出の取り組み—  
～「場所文化」の再興と、お金の質を変えた  
「温かなお金」による場の形成へ～

# 食文化を通じる都市と地域の対等な関係形成と 交流の場づくり(「とかちの・・・」～「にっぽんの・・・」)

場所文化の再興による人々の新たな交流と地域の資金循環モデルを形成すべく、その具体化モデルとして、志民の志金によって、賑わいと交流を生み、地域を元気にする 場所文化レストランを丸の内に2007年6月に「とかちの・・・」を、その後2010年5月に「にっぽんの・・・」を各々オープンし、2017年4月末まで運営。

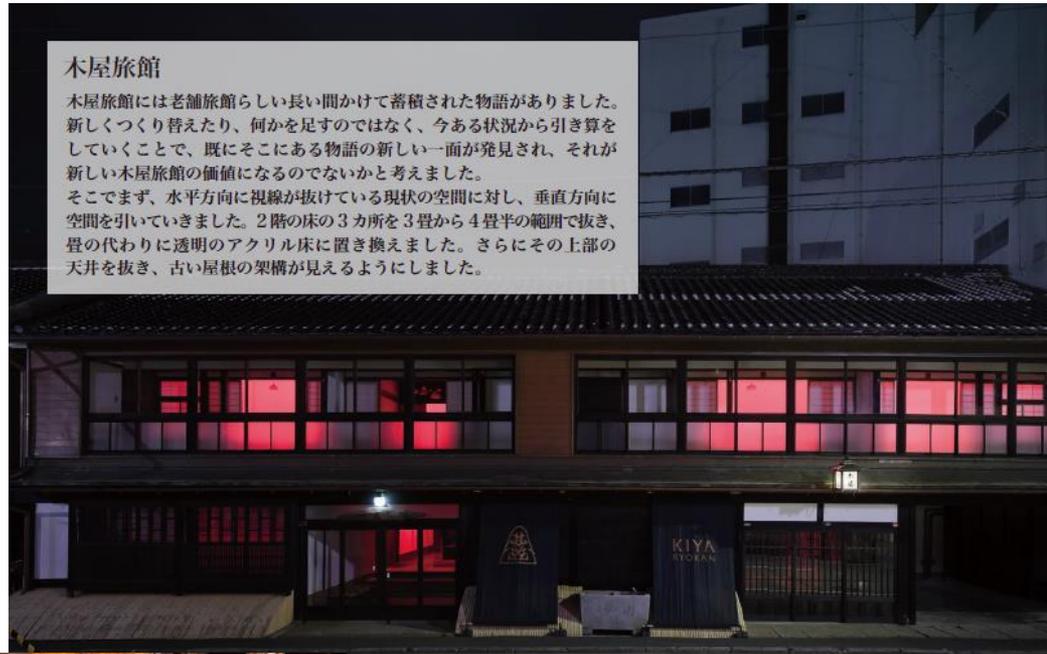


# アートによる木屋旅館再生 (2012年4月リニューアルオープン)

●トランジットジェネラルオフィス  
中村氏コーディネイトによる  
有カクリエイター集団の組成  
による木屋旅館のアート空間  
創出の内装改修が実現。

●海外メディア(MONOCLE等)  
も注目！

●登録有形文化財に指定



**木屋旅館**  
木屋旅館には老舗旅館らしい長い間かけて蓄積された物語がありました。新しくつくり替えたり、何かを足すのではなく、今ある状況から引き算をしていくことで、既にそこにある物語の新しい一面が発見され、それが新しい木屋旅館の価値になるのでないかと考えました。そこでまず、水平方向に視線が抜けている現状の空間に対し、垂直方向に空間を引いていきました。2階の床の3カ所を3畳から4畳半の範囲で抜き、畳の代わりに透明の亚克力床に置き換えました。さらにその上部の天井を抜き、古い屋根の架構が見えるようにしました。



# 2002年以降の地域活性化に 向けた取り組み

## 2. 新たな文明を切り拓く (ローカルサミットの開催)

志民の連帯の場をつくり、  
価値観の転換を図り、  
新たな暮らし方を皆で模索する

—「人間中心の成長」から、「いのちの持続へ」の  
価値観の転換と新しい暮らし方を  
全国・アジアへ発信—

# 第1回ローカルサミットIN帯広(2008年7月)

「人類・命・地球が直面する危機は、グローバル資本主義に起因するところがあり、国民国家間の調整・協議のみでは解決できない」ことを皆で確認し、これまでの延長線上ではなく、忘れかけている地域の仕組み等に解決の糸口をみつけ、**場所文化を甦らせ、いのちの原点に立ち戻る、環境生命文明の構築をめざし**、そのために、各分野(食・農、環境、まちづくり、経済、金融、教育等)に関する志民の実践の指針を提示するローカルサミット宣言を取り纏め、発表。



# 「ローカルサミット」の開催(2008～)

## 一志民の連帯と新たな価値観の形成へー

～十勝、愛媛、小田原、南砺、阿久根、上州、高野山、庄内、倉敷、東近江～

### 紡ぎだしてきた様々なキーワード！

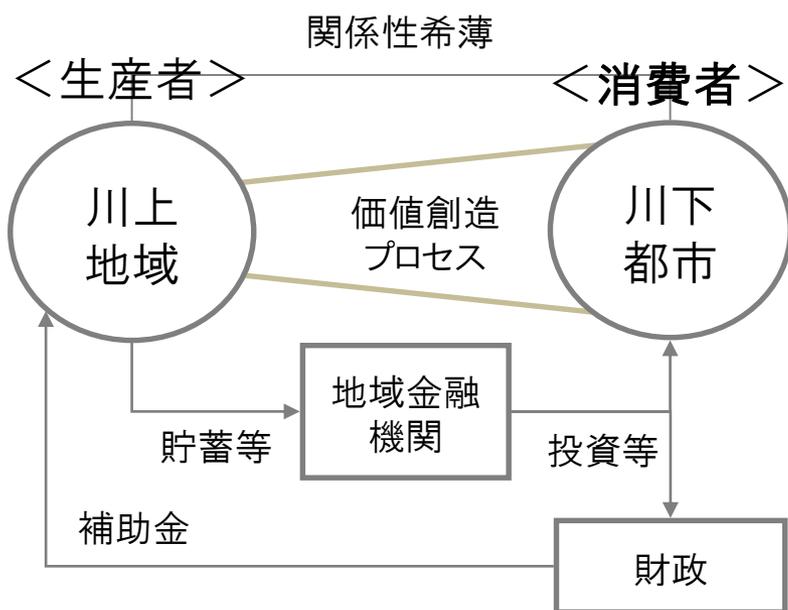
- 「確かな未来は懐かしい過去にある」
- 「お金で全てを計る物差しに変え、もう一つの『いのちの物差し』を持つ」
- 「人と人、人と自然、生者と死者等との確かな関係を取り戻す『いのちの紡ぎ直し』を行う」
- 「ローカルを磨き上げることで、魅力ある多様なローカルを創り、新しい繋がりにより、真のグローバリズムが生まれる」
- 「森里川海の連環を取戻す国民的運動の展開へ」
- 「一流の地域とは、『市民力』+『文化力』を基盤とする、持続可能で、グローバルにも繋がっていく地域！」

# ローカルからの社会構造転換の具体化

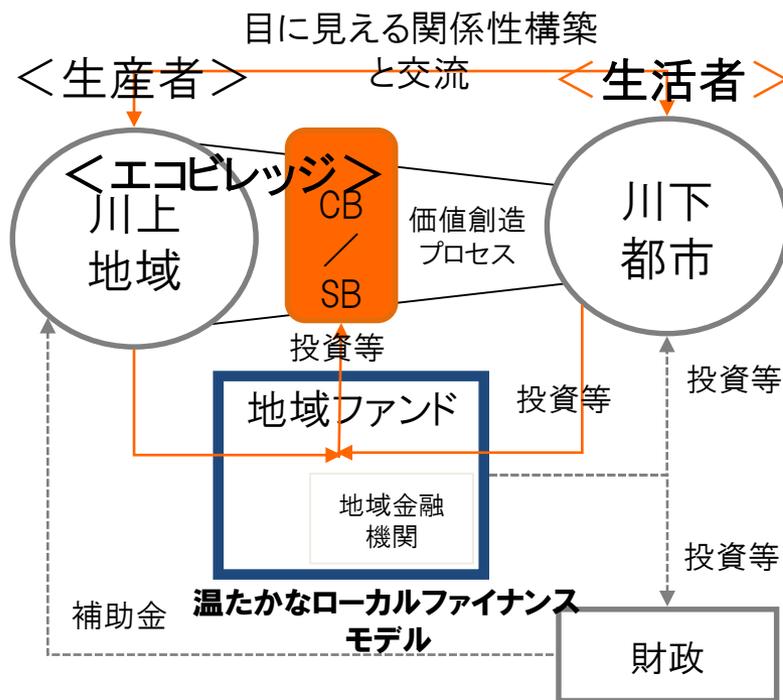
## <社会構造の変革イメージ>

- 地域活性化は、川下から川上へのヒト・モノ・カネへのシフトと新たな関係性構築が鍵
- 同時にそれを支えるローカルマネーフロー創出が不可欠⇒この結果、財政の規模も縮減

### [現代社会の構図]



### [我々の目指す社会構造]



<都市中心の巨大システム  
・安全神話の下での原発依存>

<地域の自立、小さな循環と連携  
・覚悟を持って脱原発依存へ>

# エコビレッジ構想の実現へ

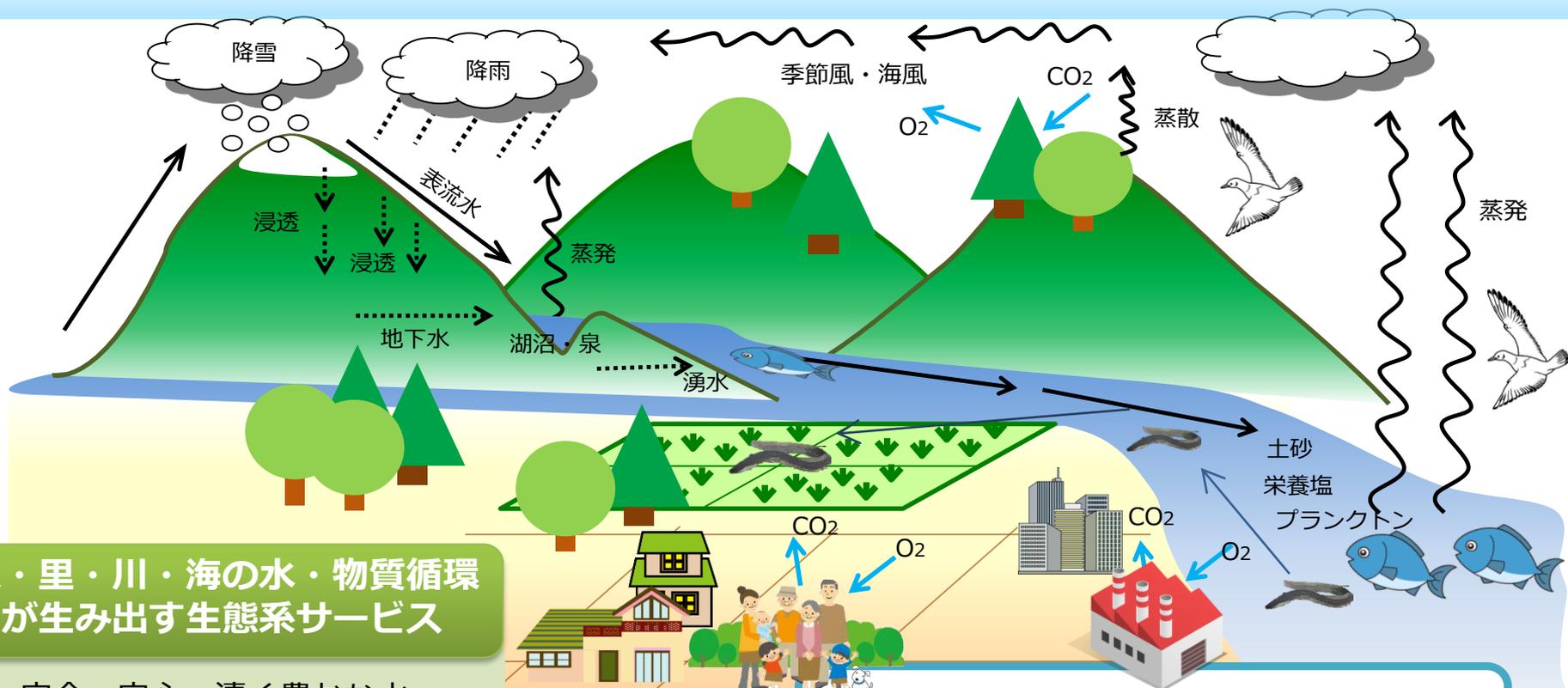
(第4回ローカルサミットIN南砺、2011, 09)

<いのちの4分野連携/新たな金融の仕組み/他地域間連携>



「にっぽんの…」など  
<東京や他地域、そしてアジア>

# 森・里・川・海の水・物質循環が生み出す恵み



## 森・里・川・海の水・物質循環が生み出す生態系サービス

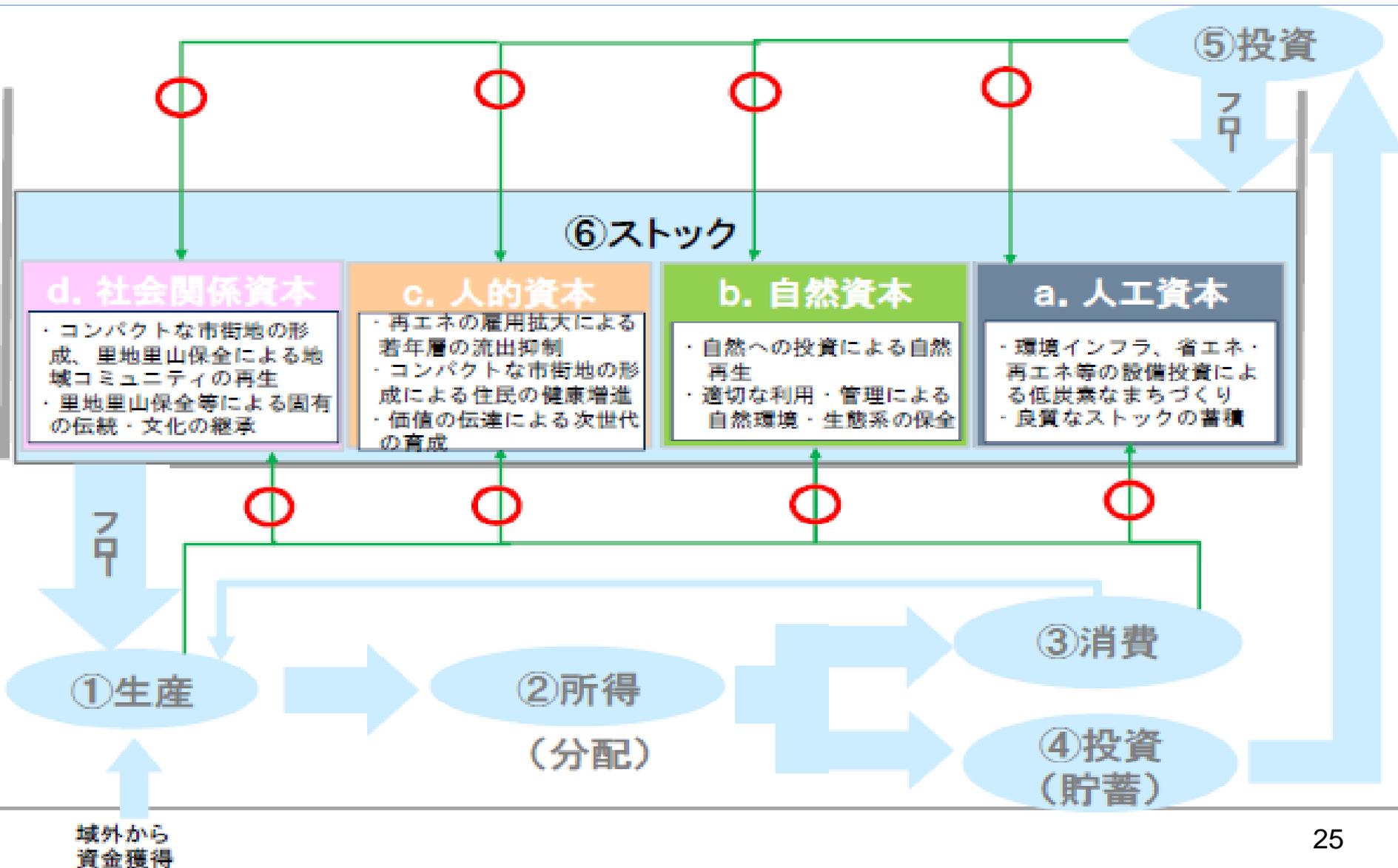
- 安全・安心・清く豊かな水
- 清浄な空気・土壌の保全
- 安全で美味しい食糧
- バイオマス
- 地域特産品
- 地域の自然に根ざした文化
- 災害防止
- レクリエーション

都市の人々は、農山漁村が生み出すこれらの恵みを受けてくらししている。



「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトスタート！('14/12~)

# 地方創生の鍵は、ストック(場所文化)の再生！ — 人と人、人と自然、過去～未来への繋がりに



# 第9回ローカルサミットIN倉敷・おかやま

「一流の地域とは、『市民力』+『文化力』を基盤とする、持続可能で、グローバルにも繋がっていく地域！」

「多種多様な地域を愛する人たちが、深く連携し、様々な共同作業を通じて、次世代の若者達にこれまでの過ちを正し、真の地域の宝物を受け継いでいくこと」

「豊かな水が多様ないのちを育み、上流と下流が相互に補完してきた『流域』をベースに新たな社会をデザインしていく」

「未来に生きる将来世代の意見に真摯に耳を傾け、彼らが描く未来へ一歩でも近づけるよう、大人達が今を変える勇気を持って行動する。」



第9回

2016

ローカルサミット  
in 倉敷おかやま

2016.

11/3 木・祝～6日

会場：岡山県内各地

「志つなぎの流域思考」

過去から未来への接点、今をどう変えるか

# 新たな繋がりの形成～流域の思想～

高梁川は岡山県を流れる三大河川の一つであり、その流域には特



高梁川流域連盟趣意書

高梁川流域学校が目指す活動の原型は、昭和29年に大原總一郎氏が書き上げた「高梁川流域連盟趣意書」に見ることができま。この趣意書の冒頭には、「ユネスコ憲章前文に世界の平和と心の平和にある。各国の習慣風俗を知ることが戦争の悲劇から遠ざける」と記されています。私たちはこの趣意書に賛同し、日本が国際間で果たすことを期待される役割を理解すると同時に、身近な隣人たちと地域の明るい未来のために働き、さらに有意義な活動を生み出すことができるように、「高梁川流域学校」をスタートさせました。

## 高梁川流域に暮らすみなさまへ

## 高梁川流域学校という流儀

— 地方創生時代の地域連携の新しい枠組みを目指して —



徹ある七市三町が広がっています。それは「命」ある川であり、太古から数知れぬ人々の生活を守り、郷土の文化・産業を育ててきました。高梁川流域で暮らす私たちは、過去の歴史と未来の希望との間にある「生き生きとした現実の営み」を、この流域のなかでいまでも日々受け取っています。運命的共有物である高梁川こそが、私たちの魂の故郷なのです。



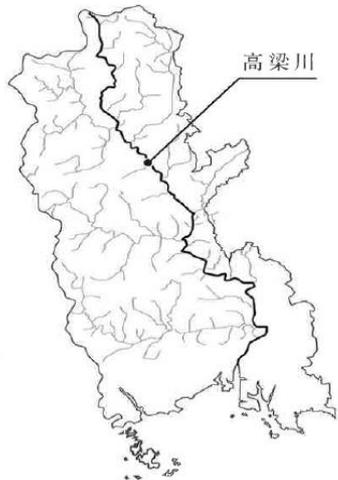
高梁川流域圏の七市三町



## 高梁川流域学校

高梁川流域学校は、大学・企業・地域団体・自治体などと連携し、流域の自然や歴史文化及び産業を「地域教育」の教材として、持続的に提供することを目的としています。

これらの活動により、「学校教育」「家庭教育」を補充し、若い世代の郷土愛・地域への誇りを醸成するとともに、さらに自治体や企業の人材育成研修を実施し、将来は、風土ツーリズムとしての地域観光プログラムの事業化を目指しています。



- 高梁川流域圏
- 市 見
  - 市 高
  - 市 梁
  - 市 島
  - 市 敷
  - 市 掛
  - 市 原
  - 市 浅
  - 市 口
  - 市 庄
  - 市 里
  - 市 笠
  - 市 岡
  - 市 早
  - 市 倉
  - 市 矢
  - 市 井
  - 市 浅
  - 市 口
  - 市 庄
  - 市 里
  - 市 笠
  - 市 岡

高梁川流域学校は、あらゆる枠組みを超え、かつてより人々が心を開いて語り合い作り上げた「気持ちのいい美しき理」になつた形」が、いまでも、そしてこれからも流域のあちこちに息づいていることを、みなさまにお知らせできればと願っています。

この取り組みは、特別な人だけのものではありません。誰もがさまざまな形で参加でき、これをご覧のみなさまと一緒に作り上げていくものです。

美しく勇壮な高梁川。この流域を誇り高き日本一の流域にしようではありませんか。みなさまのご参加をお待ちしています。

平成27年6月

一般社団法人高梁川流域学校

代表理事 大久保憲作

# 第9回 2016 ローカルサミット in 倉敷おかやま



## 基調対談

「里山・里海の連携による新しい未来へ」

## 基調講演

「高梁川流域連盟から  
発展した新たな連携」



## パネルディスカッション

「流域思想による地域創生の意義と課題  
～分科会へのメッセージ」



## 若者からの提言



## 総括セッション



# 地域経済循環図(2013)からみた東近江市の課題

東近江市の地域経済循環分析結果

東近江市総生産 / 総所得 / 総支出 4,446 億円【2013年】

フローの経済循環

生産

分配

支出

地域外

民間消費の流出：

約734億円  
(消費の約23.1%)

所得の獲得：

電気機械、金属製品、窯業・土石製品、その他の製造業、住宅賃貸業、精密機械、公務、農業、一般機械、繊維

エネルギー代金の流出：  
約294億円 (GRPの約6.6%)

石炭・原油・天然ガス：  
約68億円  
石油・石炭製品：約131億円  
電気：約77億円  
ガス・熱供給：約18億円

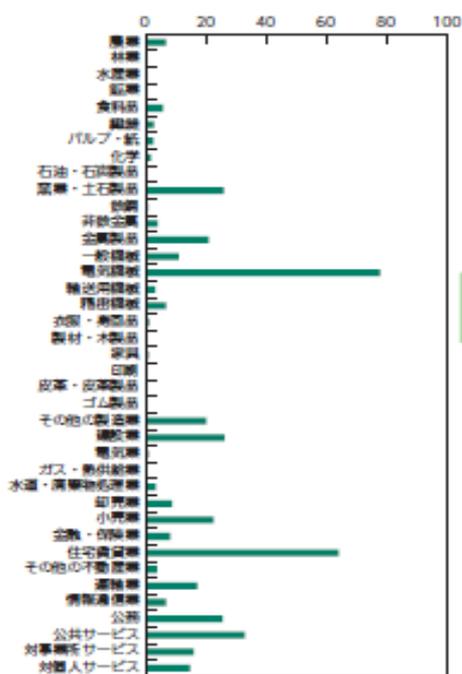
注：石炭・原油・天然ガスは、本データベースでは鉱業部門に含まれる。

民間投資の流入：

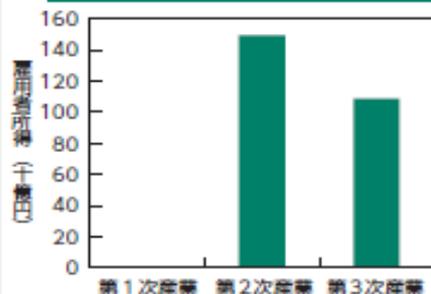
約31億円  
(投資の約3.8%)

産業別付加価値額

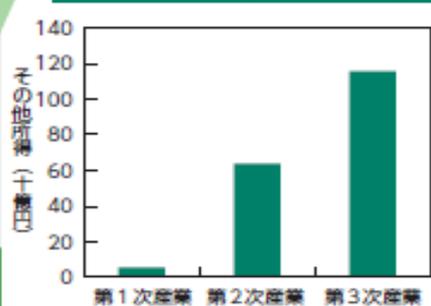
付加価値額 (十億円)



雇員所得 (2,593 億円)



その他所得 (1,853 億円)



注：その他所得とは雇員所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、税金等が含まれる。

域際収支 (十億円)

-100 0 100 200

消費

3,172 億円

域際収支

460 億円

移輸出

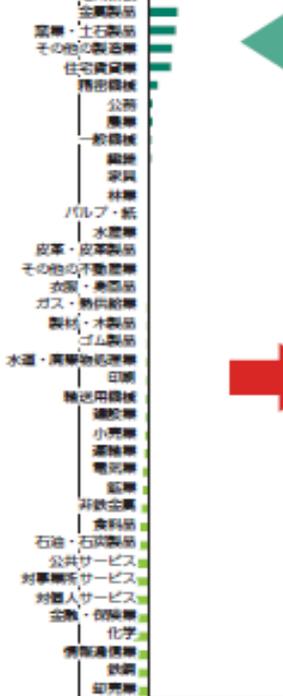
5,284 億円

移輸入

4,824 億円

投資

815 億円



金融機関等

自然資本 (環境)

人的資本

人工資本

社会関係資本

地域資源ストック：フローを支える基盤

注：消費＝民間消費＋一般政府消費、投資＝総固定資本形成（公的・民間）＋在庫純増（公的・民間）

資料：環境省、株式会社価値総合研究所「地域経済循環分析」

# 第10回ローカルサミットIN東近江

## ローカルファイナンスが拓く確かな未来

～時間軸と空間軸から100年後のローカルを構想する～

2017.12.1|金|～12.3|日|



### ●基本方針 2

#### 地域資源の見直し、保全・再生

～地域資源の見直し、保全・再生による地域の価値を高める地域づくり～

#### 地域資源とは、

私たちの地域は、「自然資本」「人工資本」「人的資本」「社会関係資本」の4つの要素と、これらの中で育まれた「文化資本」で構成されています。これらを経じて「地域資源」と呼びます。

#### 地域資源



市外へ自然資源、生態系サービスを提供

- ・食料、水、木を使った製品
- ・水源かん養、自然災害の防止など

市外へ

・市民の市内消費貯蓄の増加

### ●基本方針 1 地域資源の活用

～地域資源の活用による豊かな地域づくり～

・もの、サービスの販売による市民の所得の向上

市外から

市外から資金、人材などの受入

- ・自然保全活動への参加
- ・社会経済的な仕組みを通じた支援など

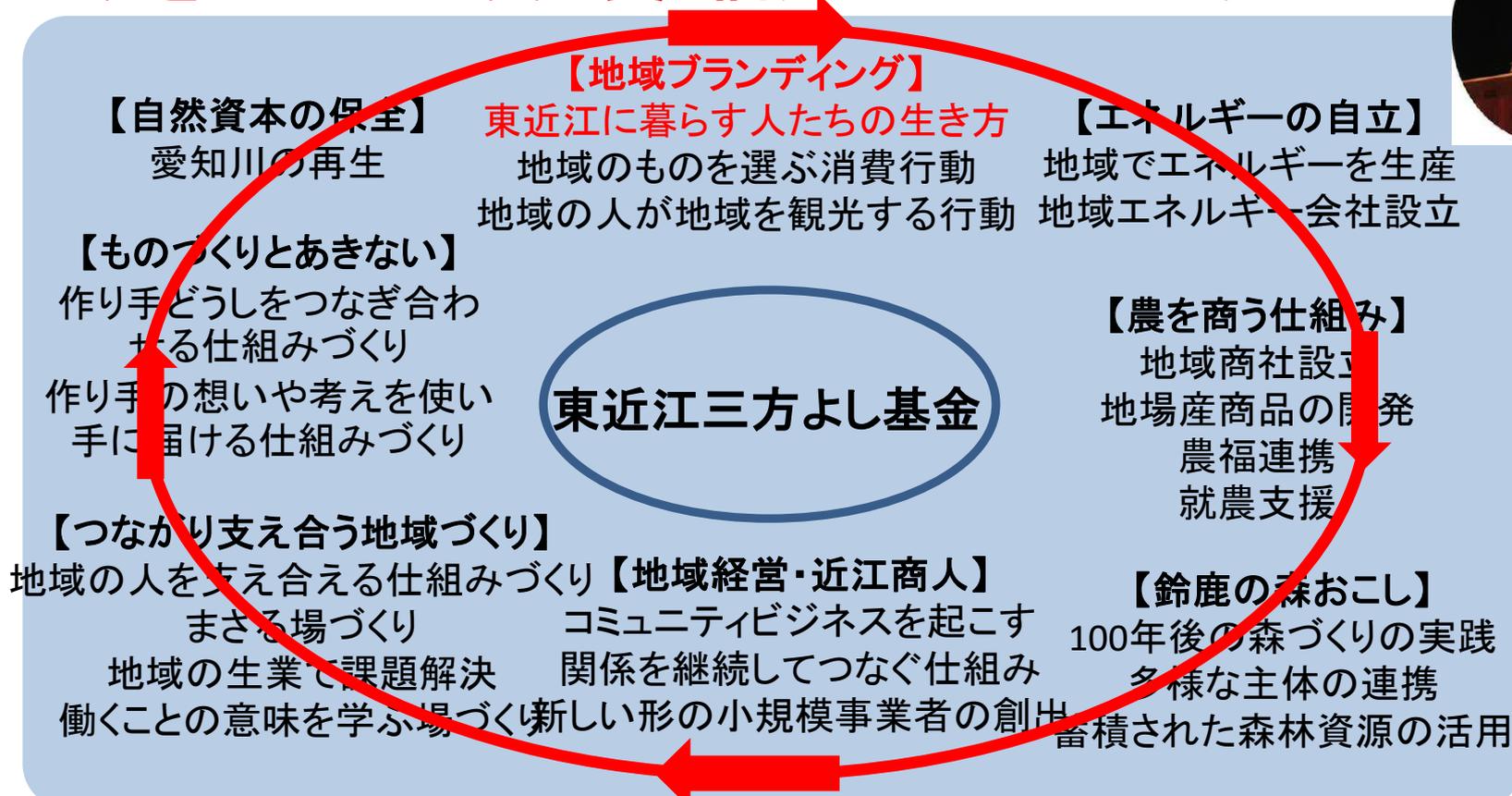
### ●基本方針 3

#### 地域資源をつなぐ仕組みづくり

～地域資源をつなぐ仕組みづくりによる循環共生型の地域づくり～

# 第10回ローカルサミットIN東近江宣言

## 地域をめぐる地域通貨：信用はシビックプライド！



### ～地域の主役は次世代～

第10回ローカルサミットin東近江を通じ、地域の歴史・文化、人と自然が調和して暮らしていた伝統的な普遍的価値観の重要性に気づいた私たちは、それを新たな形で実現しうる次世代に確実に伝えなければならない。

# 地域の「確かな未来」創生への 4つの連立方程式

地域資源の再創造 = 「森里川海プロジェクト」

+

地域内資源の循環 = 「エコビレッジ構想」

+

地域人財の育成とシビックプライドの醸成 =  
「子ども達、若者が主役」

+

新たな公共と温かいお金 =  
「住民主体による新たなまつりごと」

**新たなまつりごとの形成  
～「地域内資金循環」の促進と  
志民が協働で創り、活用する  
「ローカルファイナンス」の意義～**

# 新たなまつりごとの形成へ ＜経済と金融をどうとらえるか？＞

これまでは：経済とは国富を拡大させること！

⇒マクロ乗数効果の世界：国民の消費・投資増は国富を増大させ、そのパイを国民に分配していく！

～ $Y(\text{GDP}) = 1 / \text{貯蓄性向} \times (C + I + G)$



これからは：経済とは「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」こと！地域の中で、「暮らし」を営々と紡ぐこと。

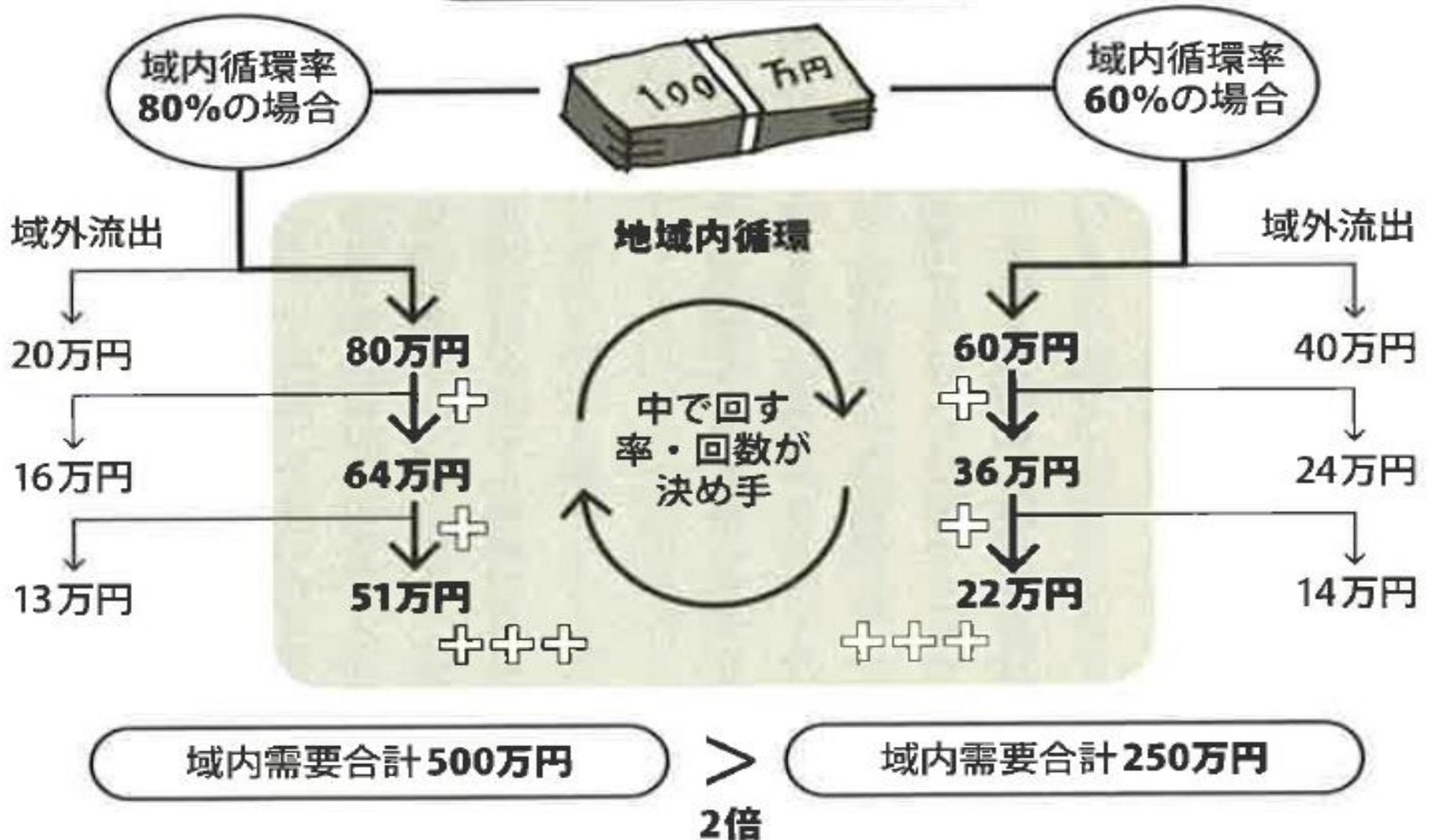
⇒地域内乗数効果の世界：地域での循環が高いほど、地域の需要が増え、「温かなお金」が巡っていく！

～地域内循環アップへ（出来るだけ広く、廻す！）

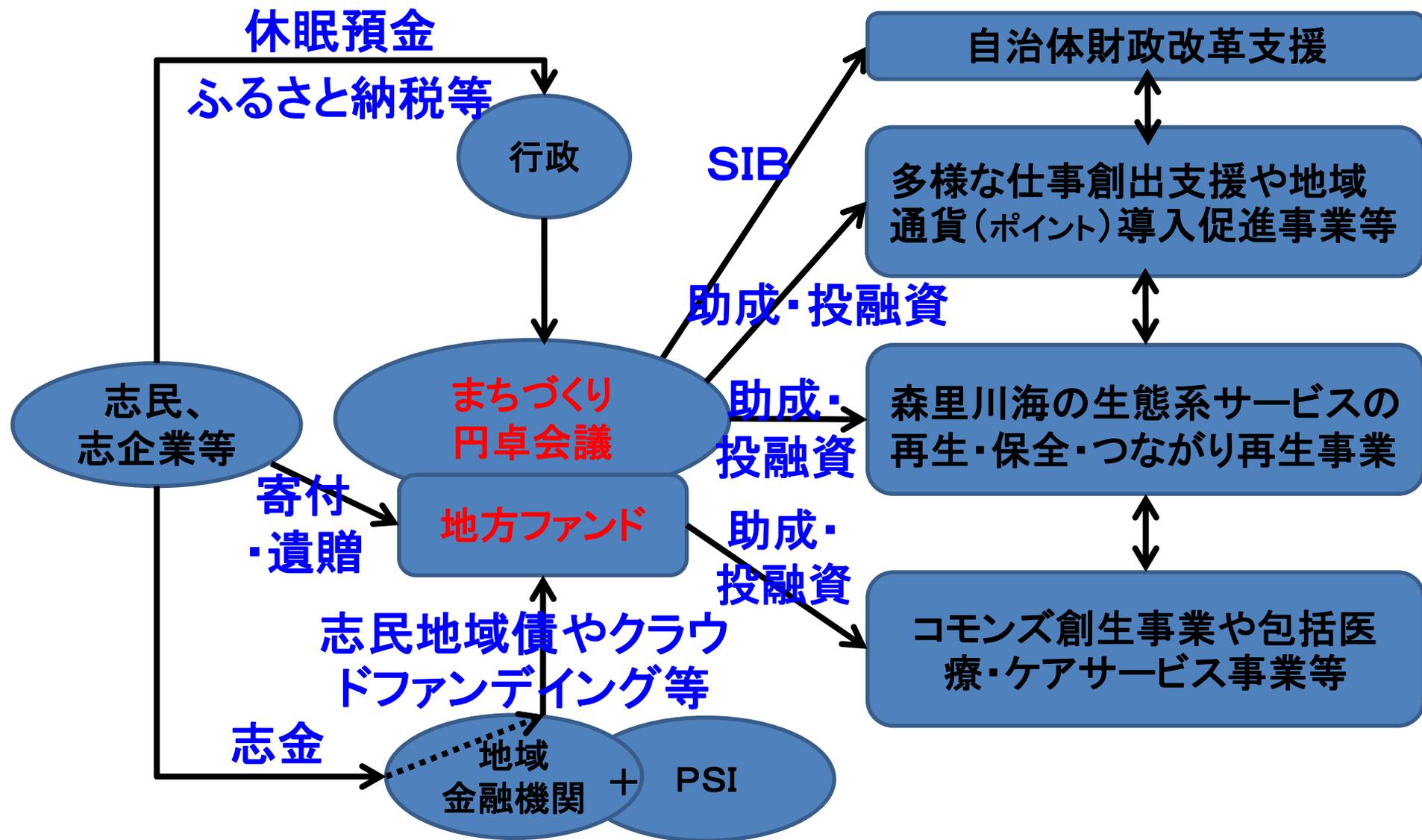
⇒都会とは違う「小さな雇用」の創出が鍵！

# 地域内乗数効果とは？（域内循環率との関係）

同じ100万円を投資しても…

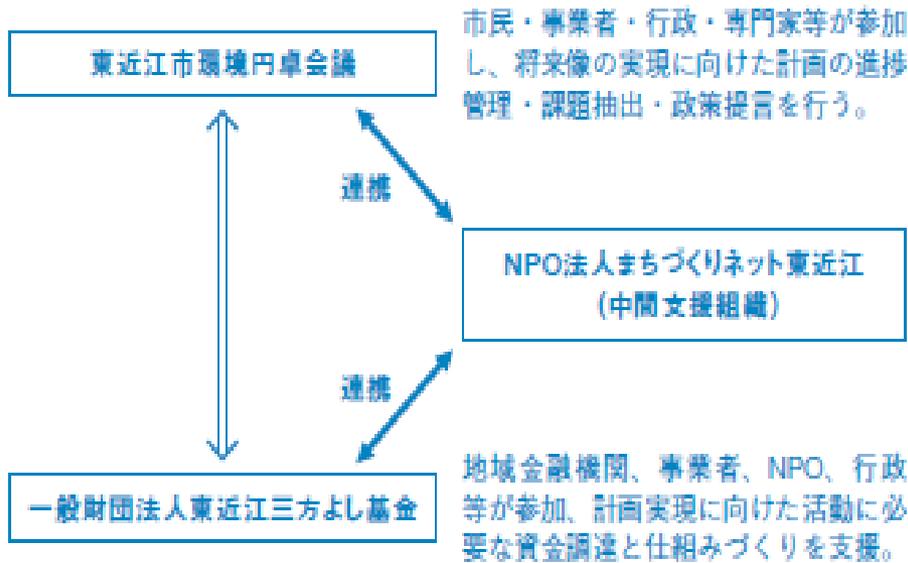


# 地域ファンド設立による地域課題の解決



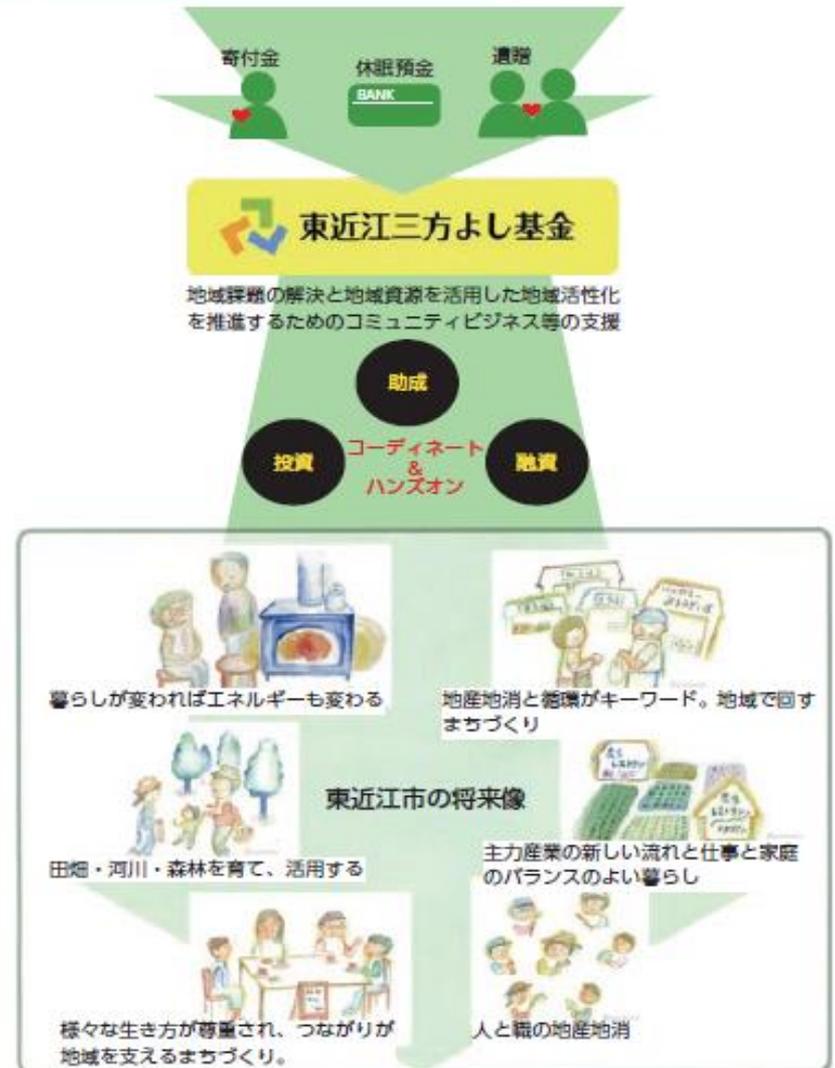
# 「東近江三方よし基金設立(2017.3)」

## 2030年東近江将来ビジョン推進体制



## 「東近江三方よし基金」の概要

東近江三方よし基金 目指すカタチ



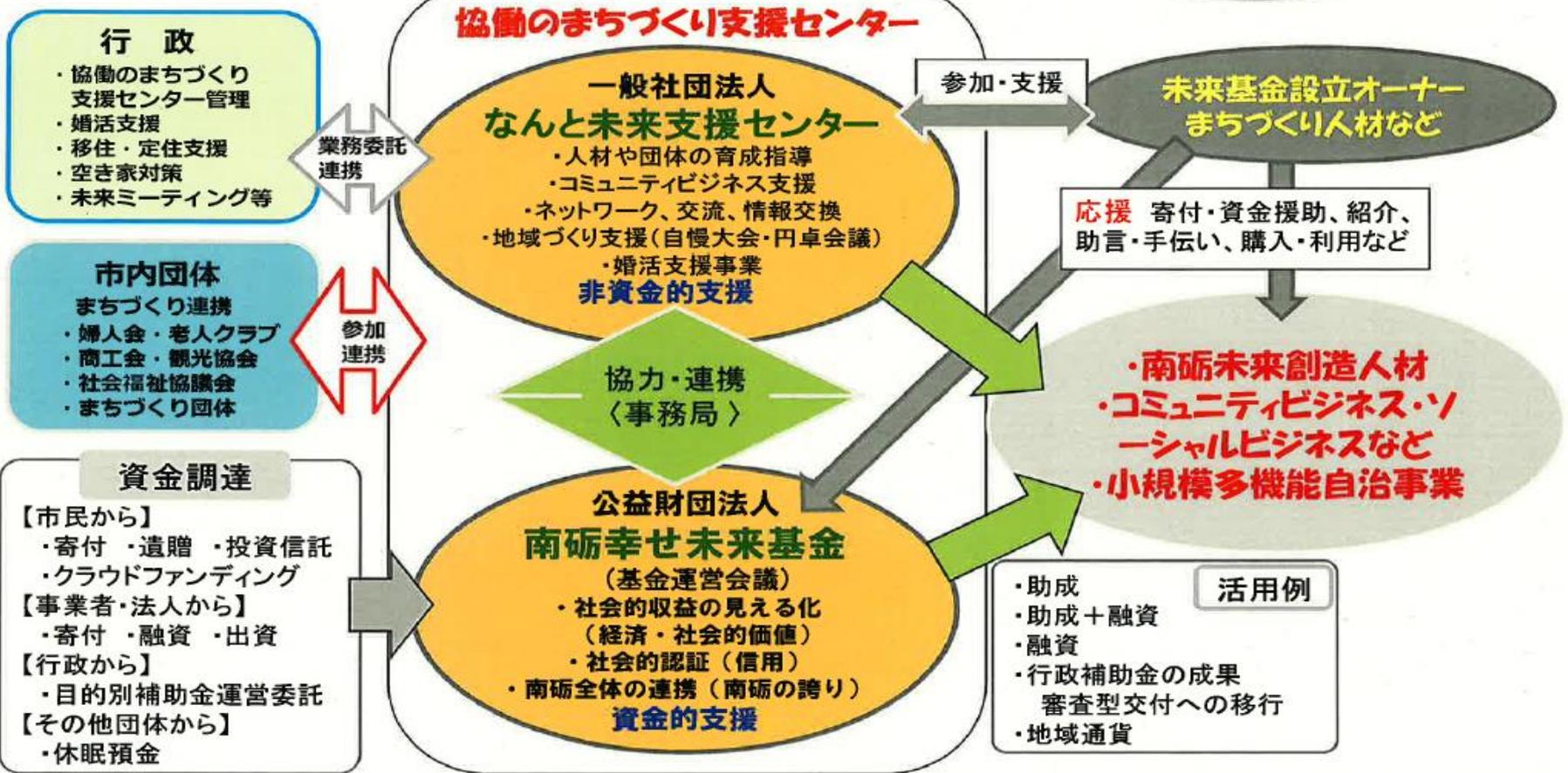
資料：東近江市

# 「南砺幸せ未来基金設立(2019.3)」

## 「南砺幸せ未来基金」を活用した住民、行政や関係者が支え合うまちづくりの概要

地域の思いを地域の知恵と連携と資金で自ら実現する仕組みづくり

人や自然、文化等の地域資源を活用しながら、若者のやる気に溢れる活動や地域が抱える諸課題を解決する活動等を応援することで、地域を元気にし、未来の南砺を創るための仕組みとして基金を活用する。基金の運営を通し、人と人を繋ぐことで、支え合う地域の力を育てる。



# ローカルファンド研究会IN西条の目指すもの ～新たな西条のまっりごとの形～

愛媛新聞 平成29年12月28日

**【西条市まちづくり円卓会議(仮称)】**  
まちづくり市民会議の方々を中心に、市民・事業者・行政・専門家・学生等が幅広く参加し、西条市の2030年ビジョン等の将来像を描き出す作業を行い、その実現に向けた課題抽出や政策提言を積極的に行う。

**ローカルファンド研究会 IN西条  
(2018/5～継続的に開催中)**

**【一般財団法人 西条うちぬき未来基金(仮称)】**  
地域金融機関、志民、行政、PSIや諸団体等が連携し、西条市の将来ビジョン実現に向けた活動に必要な多様な資金調達と仕組み作りを構築し、支援を実施していく。

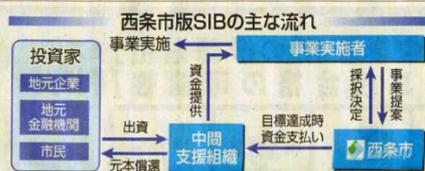
### 西条市、愛媛銀などと構築へ 成果型補助金活用目標

市民活動支援のファンド



市民や民間企業から募った資金を地域活性化などの市民活動に投じる仕組みを構築し、西条市は27日、金融機関などの社ローカルファンド構築に関する包括連携協定を結んだ。ソシヤル・インパクト・ボンド(SIB)と呼ばれる成果型補助金制度の導入を目指す。市が協定を結んだのは愛媛銀行(松山市)と、社会的投資のシステム設計などを手がけるアラスソシヤル・インベストメント(PSI)との間で、協定は地域で資金が循環する仕組みづくりの推進を目的とし、SIB導入のほか、市

西条市版SIBの主な流れ



民から寄付金を募って活動資金に充てる「うちぬき未来基金(仮称)」設立などを検討する。SIBは投資家から集めた出資金を事業実施者に提供し、事業の目標を達成できた場合に限り西条市が元本返済や利息支払いなどに出資を中間支援組織へ返して支出する。2018年度は既存の補助金運用の中から、成果型補助金の移行に適切な事業を選んで行い、将来的には事業を募集して進定する。PSIによると、従来の補助金では選定時の詳細や資金が適正に支出されているか行政の注意が向いていないが、SIBでは成果型補助金の支出を判断するための、出資の効率利向上がある。出資した市民の事業への関わりが深くなる」と

メリットの一方で、元本返済がないため、出資金が帰ってこない場合もある。先事例の滋賀県東近江市では、空き家活用などのコミュニティビジネスの活性化や福祉の野の事業などを実施しているという。出資金はクラウドファンディングの募集に加え、愛媛銀窓口でも対応できないか検討、愛媛銀は事業実施者を集める際の情報提供や投資家としても協力する。3者は今後、詳細な制度設計を進める。

市役所の協定締結式で玉井敏久市長は「多様な地域課題の解決に当たる事業に役立てたい」とあいさつ。PSIの野池雅人社長は「市民が古来の活性化を考慮できるか」と意気込んだ。(岩田太)

# 新たな金融変革の潮流

## ～グローバル・ローカル双方からのうねり～

# 新しい金融変革の潮流

～「お金の流れ」を変えて未来を創る！～



世界大での環境制約  
(地球温暖化問題)

SDGS金融  
ESG投資

サステナブル・ファイナンス



金融変革の実現

地域ファンド  
ソーシャルインパクト

ローカルファイナンス



地域創生自立・循環  
(森里川海PJ)



# 「激変する世界ビジネス“脱炭素革命”の衝撃」 (NHKスペシャル、2017. 12. 17)



# 経営資源はもはや化石燃料ではない！ (座礁資産になる！)

あとどのくらいCO2を排出できるのか

～累積許容CO2排出量と化石燃料の可採埋蔵量に含まれるCO2排出量～

累積CO2排出約3兆トンで、地球全体の平均温度は2度上昇 (IPCC)。  
既に約2兆トン排出、残り約1兆トン (現行ペースで約30年)。化石燃料の埋蔵量  
を全て燃やすと約3兆トン排出相当、つまり3分の2は単純には燃焼できない。

2°C目標を達成するための  
累積許容CO2排出量

3.01兆トン



既に  
排出

燃焼できる量 =  
1.12兆トン  
= 残る許容排出量



燃焼  
できない

2.86兆トン

化石燃料の可採埋蔵量に  
含まれるCO2排出量

# 環境金融を巡る海外の動き

## ① 化石燃料資産のダイベストメント

- 2度目標を達成する世界を想定して、海外では、石炭等の化石燃料を「**座礁資産**」と捉え、投融資を引き揚げる動き(**ダイベストメント**)が起きている。
- 世界の大手の銀行グループにおいても、こうした潮流にのった取り組みを進める動きが起こっている。

### ■ 具体事例

- ① 平成29年1月、大手金融機関のドイツ銀行が、新たな石炭発電所の建設や拡張への投融資を行わない等の方針を公表。
- ② 平成29年5月、カナダ五大銀行の一つであるモントリオール銀行の運用子会社であるBMOグローバル・アセット・マネジメントは、化石燃料保有企業に対してダイベストメントを行う旨発表。
- ③ 平成29年6月、オランダ金融大手INGグループは、米国とカナダで環境破壊等が社会問題となっているカナダでの主要なオイルサンドのパイプラインプロジェクトに対してダイベストメントを決定。

## ② エンゲージメント

- 保有株式等に付随する権利を行使する等により投融資先企業の取組に影響をもたらす動き(**エンゲージメント**)が起きている。
- これにより、企業の環境行動に変化をもたらすことが可能。

### ■ 具体事例

“Climate Action 100+” (2017年発足)

- 温室効果ガスの排出量抑制及び気候関連の財務情報開示を通じて、気候変動に関するガバナンスを向上させるための投資家イニシアチブ。
- 国連責任投資原則(PRI)と、気候変動対応を企業に求める4つの世界機関投資家団体が主体となって発足させた。

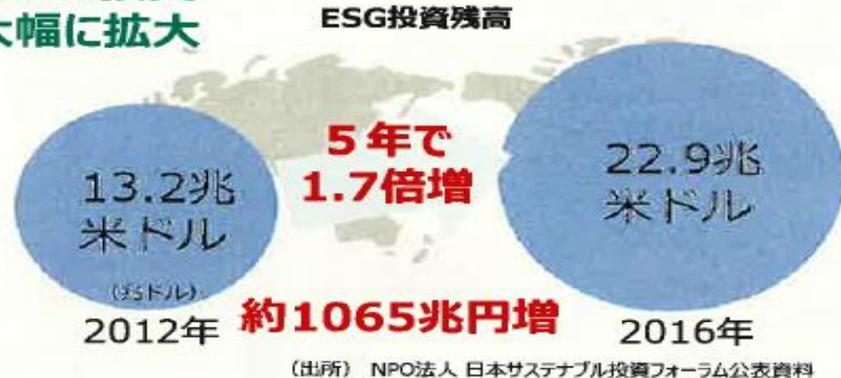
## ③ グリーンファイナンスの動き

- 海外では、2度目標の実現に向けた対応をビジネスチャンスととらえ、中長期的な視点から戦略的に再生可能エネルギー等への融資に取り組む動きがみられる。

### ■ 具体事例

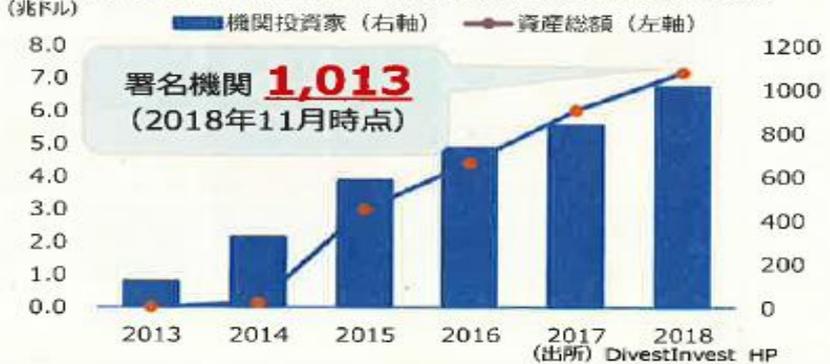
- ① JPMorgan Chase(米)及びBank of America(米)は、2025年までに低炭素関連等の分野へ各々2千億ドル、1250億ドルのファイナンスを発表。
- ② KBC(ベルギー)は、2030年までにエネルギークレジットポートフォリオ全体における再生可能エネルギーのシェアを50%まで拡大することを発表。

# ◆ 世界のESG投資市場は大幅に拡大

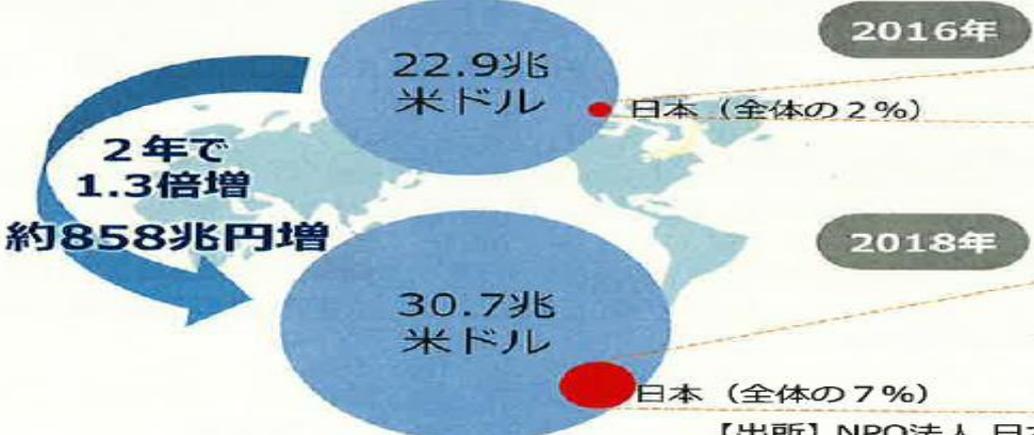


# ◆ 化石燃料からのダイベストメントの増加

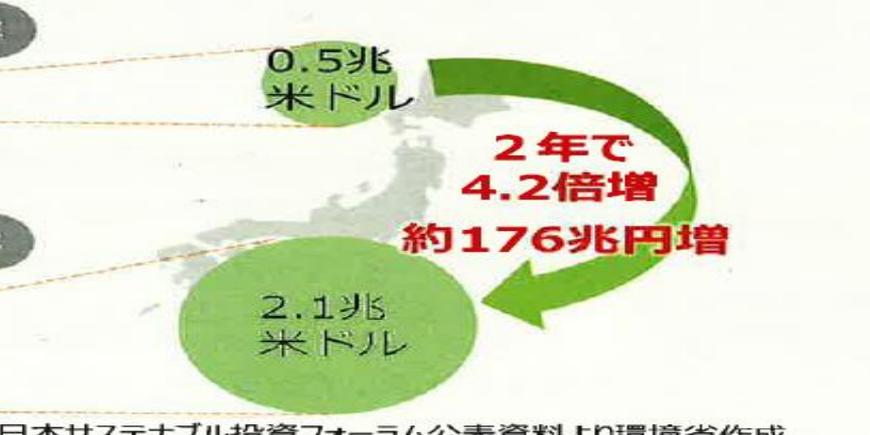
ダイベストメントにコミットした機関投資家と資産総額



# 世界のESG市場の拡大



# 日本のESG市場の拡大



# ローカルからの温かなお金の流れ

～地域循環共生圏の具現化、ESG金融  
・金融監督の新たなフレームワーク～

# 第五次環境基本計画の基本的方向性

目指すべき社会の姿

## 1. 「地域循環共生圏」の創造。

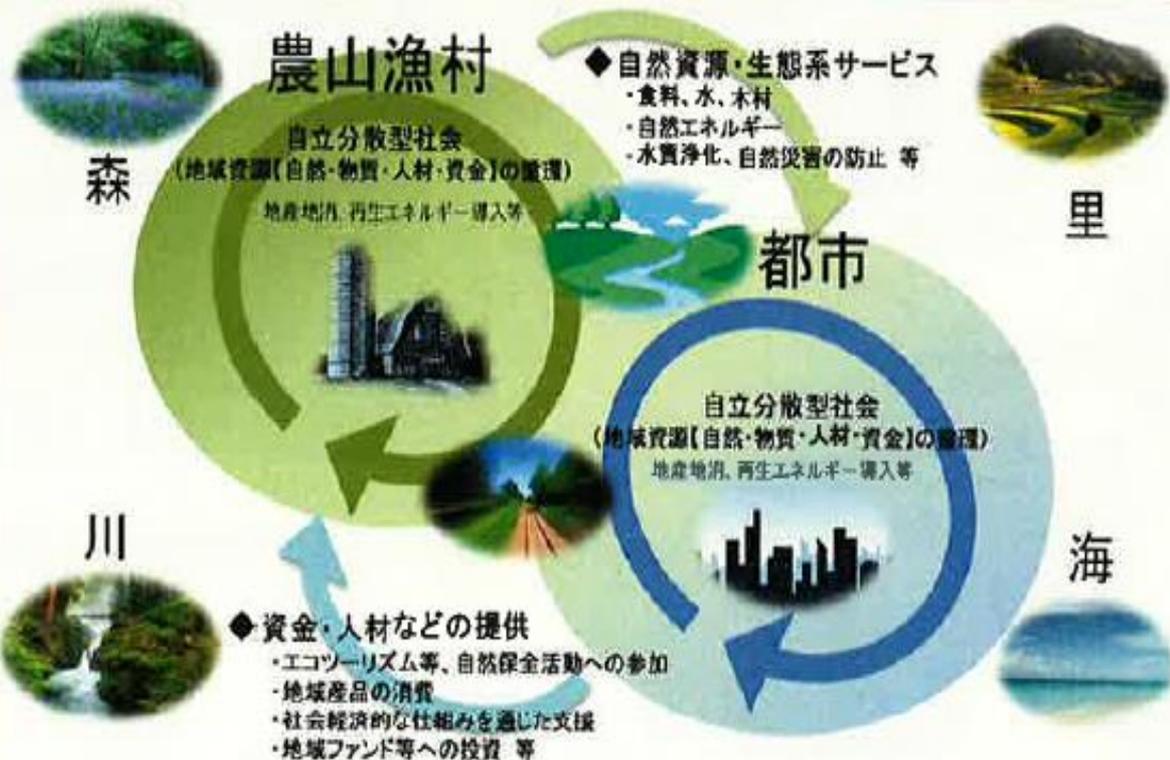
- ※ 各地域がその特性を活かした強みを発揮
- 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
- 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**

## 2. 「世界の範となる日本」の確立。

- ※ ① **公害を克服**してきた歴史
- ② 優れた**環境技術**
- ③ 「もったいない」など**循環**の精神や自然と**共生**する伝統を有する我が国だからこそできることがある。

## 3. これらを通じた、持続可能な循環共生型の社会（「**環境・生命文明社会**」）の実現。

地域循環共生圏



生活の質を  
向上する  
「新しい成長」  
を目指す

# 地域循環共生圏の概念

- 人間 = 細胞・組織が自立・分散して機能



- SDGs = No one will be left behind. 誰も取り残さない（あらゆる個人が活躍）



資料：国連広報センター

- 地域循環共生圏 = 地域の各要素が自立・分散して機能



資料：環境省

- 地域の特性、地域資源の性質に応じ、**最適な規模で地域資源が循環**する。

- 狭い地域での循環に適した資源 ⇒ コミュニティや自治体レベルの小さな領域で循環
- 広い地域での循環に適した資源 ⇒ 河川流域、都道府県、国など地域を越えたより広い領域での循環

「地域循環共生圏」は、環境と経済・社会の統合的向上、地域資源を活用したビジネスの創出や**生活の質を高める「新しい成長」**を実現するための概念。農山漁村も都市も活かす、地域の活力を最大限発揮する考え方。そしてポイントは、**ボトムアップ・地域からのアプローチ！ (=ローカルSDGS)**

# 地域循環共生圏（日本発の脱炭素化・SDGs構想）

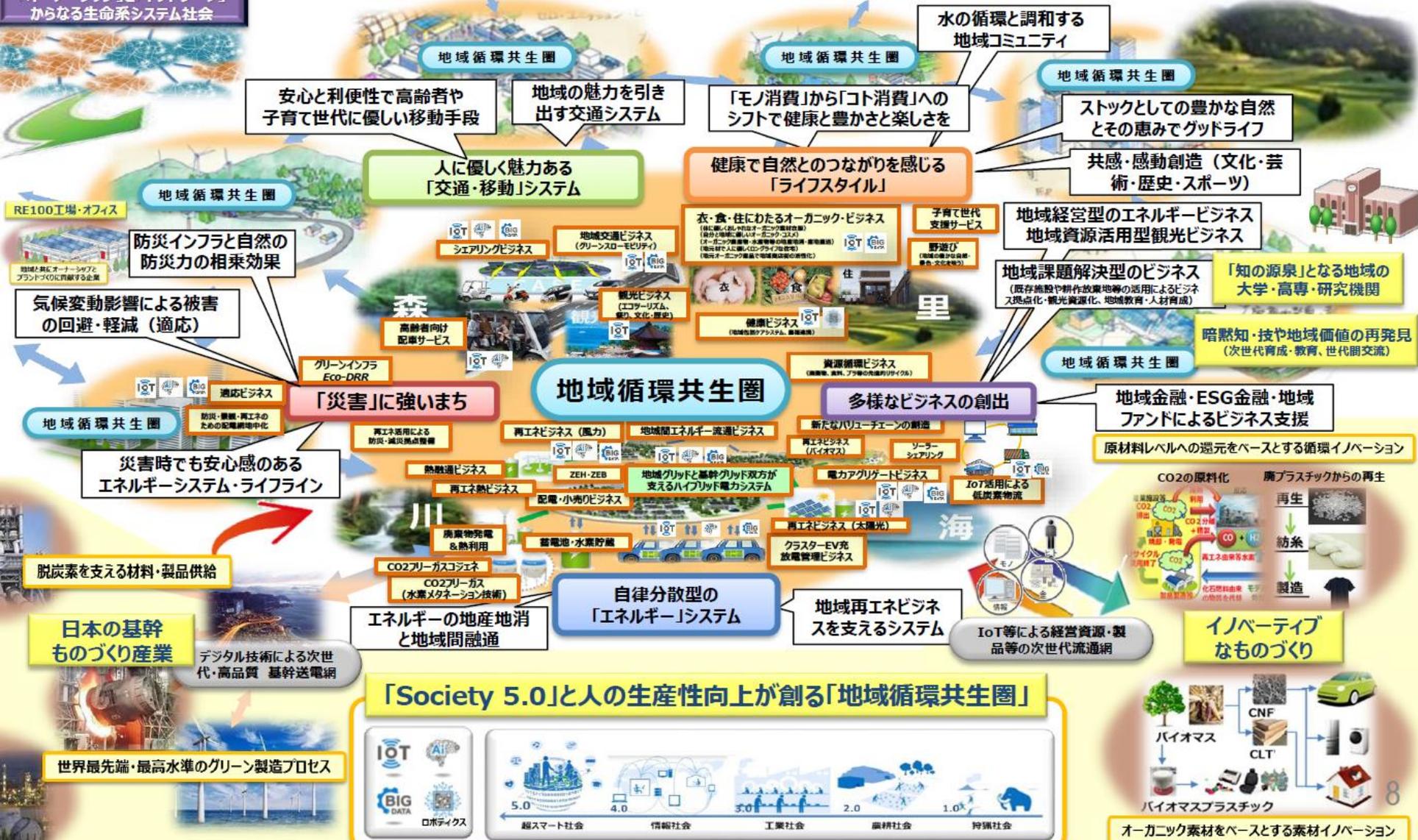
— サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム —

「自立分散」 × 「相互連携」 × 「循環・共生」 = 活力あふれる「地域循環共生圏」 ⇒ 「脱炭素化・SDGsの実現、そして世界へ」  
 「オーナーシップ」 「ネットワーク」 「サステナブル」 「人間の安全保障、次世代・女性のエンパワーメントを基礎に」

➡ **新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤**

人々が健康で生き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることにより、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。

「オーナーシップ」と「ネットワーク」  
からなる生命系システム社会



## 2 一流の田舎と地域循環共生圏の意義 「地域循環共生圏」の具現化

地球規模で考え、地域レベルで行動する

グローバルリスクとなった今日の環境問題への対処  
地球規模で考え地域レベルで行動する  
(Think globally Act locally)

地域循環共生圏はその舞台

行政、住民、企業、大学、NPOに加え、研究者、技術者、投資家など様々な分野の人たちのオープンイノベーションがその実現を支える

# 今後の地域金融のあり方

## 間接金融によるESG融資の促進に向けて

### (1) 地域ESG金融を通じた地域の社会・経済課題との同時解決

#### ① 地域の核としての地域金融機関に求められる姿勢

- 顧客本位の持続可能なビジネスモデルの構築には顧客のESG課題や地域のSDGsの視点が必要。こうした認識を持ち、体制・人材を整え、事業性評価融資や本業支援に取り組むべき。

#### ② ESG地域金融の実現に向けた取組

- ESG地域金融は、地域の持続可能性＝収益基盤の確保に資する。
- 地域金融機関による、地域のESG課題の掘り起こし、事業構築への関与・協力。

#### ③ 地域循環共生圏の創出に向けEに着目した地域金融

- 地域低炭素投資促進ファンド等の促進は引き続き重要。

#### ④ 中小企業のESG経営の重要性

- 地域の中小企業経営者によるESG経営取組の認識の醸成。

#### ⑤ 地域金融エコシステムの再構築

- ソーシャルファイナンスの担い手の育成・多様化。

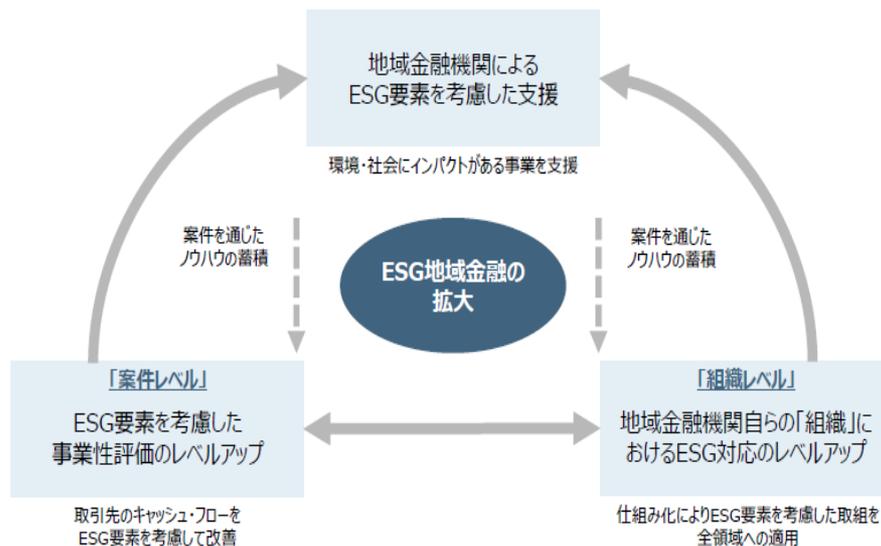
#### ⑥ 地域の課題解決に向けた地方自治体との連携

- 自治体によるESG地域金融における役割の認識、行動の質の向上。

## 2. ESG地域金融のあり方

- 地域金融機関はESG要素に考慮して取引先を支援（ESG地域金融）、事業価値向上や地域活性化を図る。
- ESG地域金融の拡大に向けては、ESG要素を考慮した事業性評価のレベルアップ、地域金融機関自らの「組織」におけるESG対応のレベルアップを図ることが必要である。

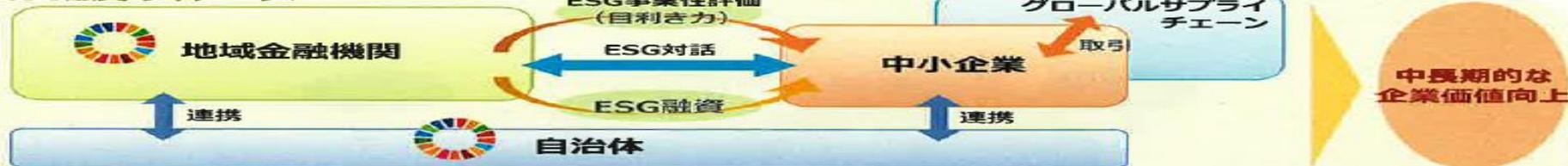
ESG地域金融の拡大に向けて



地域の社会・経済課題と環境課題の同時解決

## 地域循環共生圏

<ESG融資のイメージ>



中長期的な企業価値向上

### 知見を整理

「事例から学ぶESG地域金融のあり方」の整理や、ESG融資以外の新たなグリーンファイナンス手法の検討会  
 ▶2019年3月取りまとめ

### 具体的な取組を支援 (2019年度開始)

ESGを考慮した事業性評価のプロセス構築支援  
 地域のESG融資への利子補給  
 新たなグリーンファイナンススキームの構築・事業化支援 (グリーンクラウドファンディング、環境版ソーシャルインパクトボンド等)

# 金融監督のフレームワーク転換

「形式・過去・部分」から「実質・未来・全体」へ

## 形式

- 担保・保証の有無やルール遵守の証拠作りを必要以上に重視

## 過去

- 足元のバランスシートや過去のコンプライアンス違反を重視

## 部分

- 個別の資産査定に集中、問題発生の本原因の究明や必要な対策の議論を軽視

## 実質

- 最低基準(ミナム・スタンダード)が形式的に守られているかではなく、実質的に良質な金融サービスの提供やリスク管理等ができているか(ベスト・プラクティス)へ

## 未来

- 過去の一時点の健全性の確認ではなく、将来に向けた健全性が確保されているか

## 全体

- 特定の個別問題への対応に集中するのではなく、真に重要な問題への対応ができているか

視野の拡大

顧客(地域)との共通価値の創造による好循環

**ローカルイノベーションを支える  
温かなお金の流れの創出に向けて！**

**～お金の意味再考、地域課題＝SDGs課題、  
地域金融機関との協働、  
農林漁業・ものづくり、  
森里川海PJ, 地域を守る、  
ソーシャルインパクトバリューの連鎖、  
新結合(イノベーション)による100年起業創出～**

# 金融の本来的役割の再考—地域金融機関との連携

(持続可能なローカルマネーフローの創出のための金融機能の再考)

## ● 利子を見直した(利子無し、あるいは減価)時の金融の3つの形

↓  
お金を上手く使うことを考える＝お金をいのちの道具として使う(贈与・互酬的に使う)

- ①お金を「貯留する」:いのちを次世代に伝えるため、いのちの危機に備える
- ②お金を「扶助する」:いのちを繋ぐため
- ③お金を「廻す」:いのちを紡ぎ、繋ぐため

- ↓
- ①時間軸が換わり(長期の実物へのお金の貯留)、
  - ②お金ではない形での報酬を頂き(農作物等の自然の恵みの交付)、
  - ③相互扶助の役割を果たし、
  - ④これまでお金に換算されなかった価値を表出させることが、可能になる。

↓  
お金は、お金を産むこと自体を目的とせず、CBの創出と事業継続、CBを起点とした新たな商流拡大によって、いのちのつながりといのちへの感謝・感動を産むことになる。

## ● こうしたローカルマネー創出を自ら見える形で廻すお金の作り方を構想、具体化する

(地域金融機関との役割期待と連携の具体化)

- ①CBの事業規模の拡大や事業連携を進めていく上では、地域金融機関の持つ本来的な情報収集能力や目利き・経営支援力は必須⇒**地域金融機関が、「地域活性化PJのハブ」になる**
- ②ファンドや地域通貨運営上、他地域間連携も含め、地域金融機関が持つ金融ノウハウやシステム力、更には信用力は極めて重要⇒**地域金融機関が、「志民のパートナー」になる**
- ③地域金融機関は、かつての講や無尽等相互扶助の金融の仕組みからそもそも派生してきており、そこに今後の生き残り戦略を見出すべきではないか⇒**地域金融機関が、本来の「地域社会への貢献」を实践できる**

# 地域課題は地球課題（SDGsの意味）

○ SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年までを期限とする17の国際目標。

一そもそも、環境と貧困問題を解決して、地球に人間社会を永続させるには？という問いかけであり、「経済の持続成長」という含意はそもそも無い！

○地球規模の問題を解決するには、我々の暮らしの現場＝実感の世界から共感を生んでいく必要があり、その意味で、地域課題と地球課題をつなぐ共通言語！

○例えば、「子ども食堂」への対応を考えると、貧困と飢餓、教育の問題に及び、それを解決するには、食品ロスの活用や社会的寄付・応援等のパートナーシップが必須となる。



# 地域資源の活用・雇用・金融

集約化森林整備

## 木質バイオマス資源の活用

- 持続可能な木質バイオマスの発電・熱利用は、**低炭素・省資源・自然共生**を同時に実現しつつ、**地域雇用の創出**にも寄与

## 30社が起業、人口の社会増を達成

- 岡山県西粟倉村は、「**百年の森林構想**」を策定し、森林バイオマスの活用等を進め、年間の燃料経費約20%削減、域内留保約1,300万円を見込む。地域資源を活かした取組により、2008年以降**30社が起業**し、**人口の社会増**を達成。



資料：岡山県西粟倉村



温泉施設の  
新ボイラー

湯野浜温泉

## 再生可能エネルギー資源の活用

- 鳥取県米子市と地元企業5社で**地域エネルギー会社**「ローカルエナジー(株)」を設立
- 地域内の**電気**および**熱**を最大限活用し**地域にエネルギーを供給**  
⇒地域内経済循環を拡大し**雇用を創出**。

### 事例 2-2-● ローカルエナジーが目指す地域内資金循環

中海TV放送 50%	山陰酸素工業 20%	米子市 10%	三光 10%	米子瓦斯 5%	皆生温泉観光 5%
---------------	---------------	------------	-----------	------------	--------------



資料：ローカルエナジー株式会社 3

## 地域に新たな雇用

- エネルギーの地産地消、新たな資金循環に加え、自前の需給管理により、**地域に新たな雇用を創出**。

## 温泉を活かした取組

- 温泉街を挙げて温泉熱エネルギーを活用することで「環境にやさしい」新地域ブランドを構築する。

## 身近にある再生可能エネルギー熱

- 山形県鶴岡市の湯野浜温泉では、温泉街に旅館経営者らが共同で熱交換器を備えた集中給湯設備等を整備。
- 各施設のボイラー等における化石燃料の使用量削減により、**年間のCO<sub>2</sub>排出量約15%削減**を目指す。



集中給湯設備

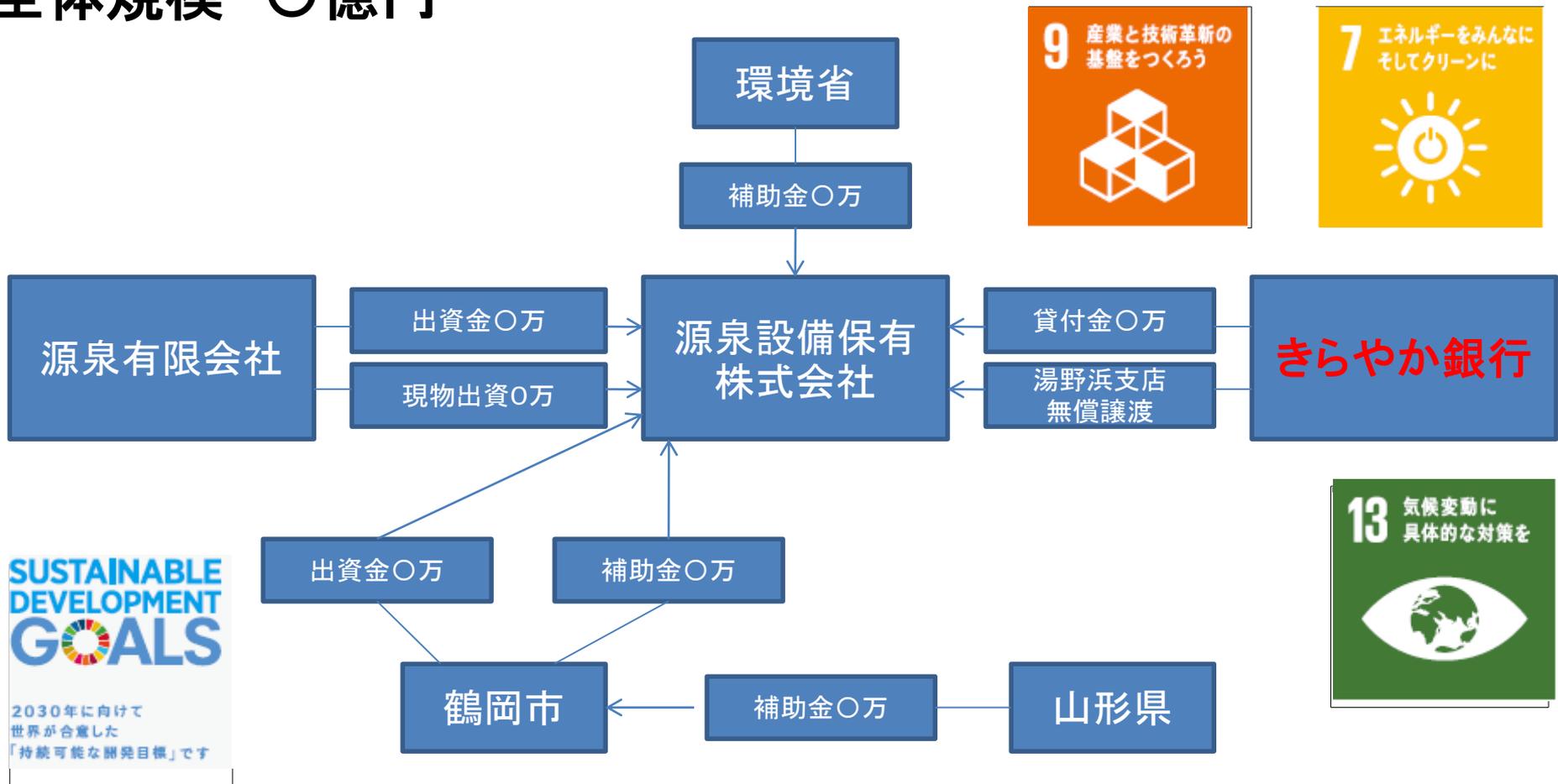


資料：湯野浜源泉設備保有株式会社

# 湯野浜温泉PJでのSDGs金融の事例

全体のファイナンスストラクチャー（新たな協働スキームであり、地域でのSDGs金融の先進事例の形！）

全体規模 〇億円



# 環境再生・農業高付加価値化・観光・芸術との連携

～豊岡(コウノトリの放鳥まで40年、環境<ストック>再生  
⇒地域経済<フロー>へ、更に演劇による世界都市へ)～

## 野生復帰プロジェクト

- 1965年から、市を挙げて、コウノトリの人工繁殖・放鳥に取り組み、現在では100羽超が野外に生息
- 同時に、コウノトリの餌となる生き物が豊富な自然環境づくりも推進

## 農産品や観光への展開

- その過程で生まれた、農薬や化学肥料に頼らない「コウノトリ育む農法」米は、通常の1.3～1.5倍の価格に
- 生息地保全活動と城崎温泉等を組み合わせた「コウノトリツーリズム」も盛況



兵庫県  
城崎温泉

# 森林価値全体の最大化へのアプローチ

## 一森をつくり～FSC認証～高付加価値化～環境教育～



「自然と人、人と人、都市と地方」の関係性に  
配慮した経済や社会の仕組みを構築する。  
高成長の東欧で地元の資源入りを活用し、  
雇用を生む家具「JIBS KOMA」が誕生した。  
日本を産出する地方的な木材が豊富にある。  
【地域材】を活かす家具と空間づくりで、  
本心に響かざるをえない。

森をつくる家具




▼ドリーム・アーツ 広島本社, 広島 R&D センター



2017年 日経ニューオフィス賞 奨励賞

竣工：2016年12月  
場所：広島県広島市  
施工：株式会社 ドリーム・アーツ  
設計・施工及び家具・仕番：  
ワイズ・ワイズ

世界産産 高級ドームのすぐ裏隣り”おりづるタワー”内に、数々の大企業や公的機関にITソリューションを提供するドリーム・アーツ広島本社が開設。導引と連携し地元伝統産業と広島県材をふんだんに使った「夢オフィス」が完成。広島県産材（クリ・ヤマザクラ・ケヤキ・トナリ・ホウ）を多用し塗装はあえてオイル仕上げ、漆に手で触れ回りを修む。五感を刺激しクリエイティブな空間づくりを實現した。



DreamArts  
Art of Communication

【オフィス】

▼セトレマリーナびわ湖



竣工：2013年  
場所：滋賀県草津市  
開発：株式会社 ホロニック  
設計：内藤院・建築設計事務所  
家具：ワイズ・ワイズ

びわ湖の湖畔にあるチャペルを併設するプライベートリゾートホテル。地域コミュニティと地域の情報が集まる場としてのホテルをコンセプトに、建築、内装、家具、空間をつくる様々な造形物の関係に滋賀県産材（センダングラ・キルガ・ヤマザクラ・コナラ・エノキ・スギ）を多用し、地元産材を地元の技術で形にした。企画・設計・施工の全てに関与し行ったプロジェクト。



BIWA COTTAGE

【ホテル・観光事業】

# 南砺幸せ未来基金の活用による

## 防災と住民を守るスマート地域交通

- ・災害時でも安心感のあるエネルギーシステム・ライフライン
- ～「森里川海」PJによる自然の防災力の相乗効果の発揮
- ・安心と利便性で高齢者・子育て世代に優しい交通の導入



脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業

2019年度予算(案)  
6,000百万円(新規)

地球環境局  
地球温暖化対策課  
地球温暖化対策事業室(他)

グリーンスローモビリティとは



事業内容

グリーンスローモビリティ：電動で、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のパブリックモビリティ

- 【グリスロの5つの特長】
- ①Green…CO2排出量が少ない電気自動車
  - ②Slow…ゆっくりなので、観光にぴったり
  - ③Safety…速度制限で安全。高齢者も運転可
  - ④Small…小型なので狭い道でも問題なし
  - ⑤Open…窓がない開放感が乗って楽しい
- ※乗合バス事業、タクシー事業、自家用有償旅客運送で運行可

軽自動車	小型自動車	普通自動車
 4人乗り	 7人乗り	 単輪子リフト可 16人乗り
 4人乗り	 10人乗り	特殊用途車両(8ナンバー)
	 単輪子リフト可 10人乗り	 福祉車両タイプ

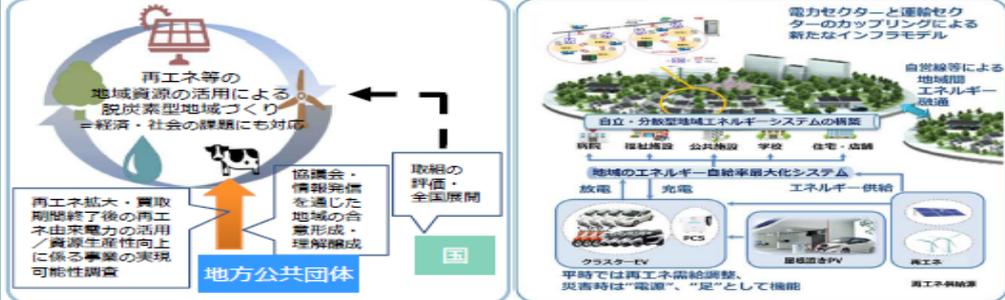
### (1) 地域エネルギー、地域交通分野での地域循環共生圏構築のための検討経費

- 経済合理性、持続可能性を有する脱炭素型地域エネルギーシステムの確立や電動モビリティの活用に向けた調査、検討を国として実施。
- また、経済合理性や持続可能性を有する脱炭素イノベーションによる地域課題解決に向け、地方公共団体、企業、地域住民等が行う協議会運営や実現可能性調査等を支援。

### (2) 地域再エネ等の活用による持続可能な自立・分散型地域エネルギーシステムや脱炭素型地域交通モデルの構築支援事業

- 太陽光発電、蓄電池等の再エネ・蓄エネ設備、自営線等を活用し、災害に強い自立・分散型地域エネルギーシステム構築に向けた事業を支援。
- また、地域の特性に応じた再エネと電動モビリティ(EV、グリーンスローモビリティ、電動二輪等)を活用した持続可能な脱炭素型地域交通モデルの構築に向けた実証事業を支援。

※事業の実施に当たっては、KPIを活用したPDCAを徹底する。



# ソーシャル・インパクトバリューの連鎖へ



図4:インパクト・バリューチェーン:エネルギー効率



図5: 街灯に関する複数のインパクト事例

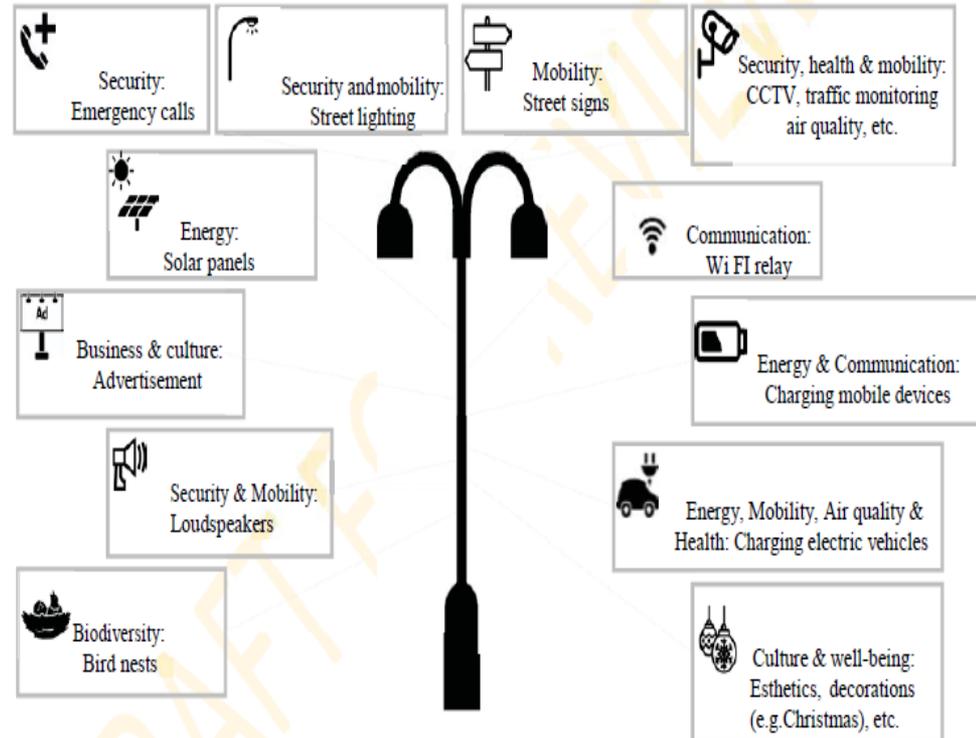
## SDGs達成に向けた金融における

## インパクトの再考

ポジティブ・インパクト・イニシアティブによる  
方針表明と行動の呼びかけ

仮訳

コンサルティング用  
2018年7月

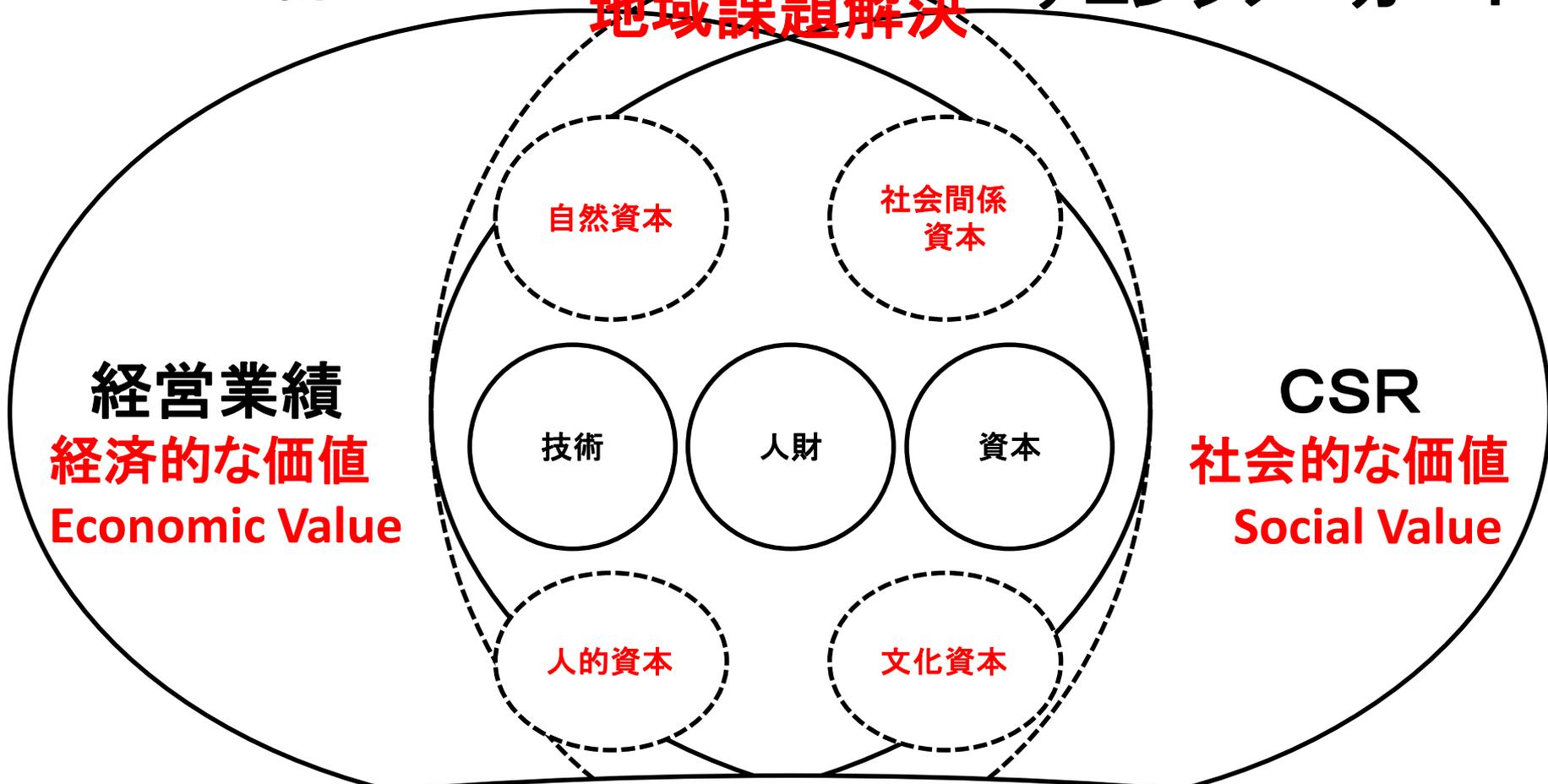


# 新たな100年起業を支える温かなお金

CSV (Creating Shared Value) の創出！

地場中小企業等こそ  
チェンジメーカー！

地域課題解決



温かなローカルのお金の流れ  
(地域金融機関＋地域ファンド等)

# 企業を取り巻く社会環境変化

～「株主第一主義」見直し、イノベーション再考、全員経営～

<クラレ>--- 企業ステートメント ----

## 米企業「株主第一」に転機

### 私たちの使命 (Our Mission)

私たちは、独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、自然環境と生活環境の向上に寄与します。  
一世のため人のため、他人のやれないことをやる

### 私たちの信条 (Our Values)

#### 【理念】

- ・個人の尊重
- ・同心協力
- ・価値の創造

#### 【行動原則】

- ・安全はすべての礎
- ・顧客のニーズが基本
- ・現場での発想が基本

### 私たちの誓約 (Our Commitment)

私たちは、

- ・安全に配慮した高品質の商品・サービスを開発、提供します。
- ・社会との対話を図り、健全な関係を保ちます。
- ・地球環境の保全と改善、安全と健康の確保に努めます。
- ・働く仲間を敬い、その権利を尊重します。
- ・自由、公正、透明な取引を実践します。
- ・知的財産を尊重し、情報を適切に管理します。



『経済発展の理論』

シユムペーター著

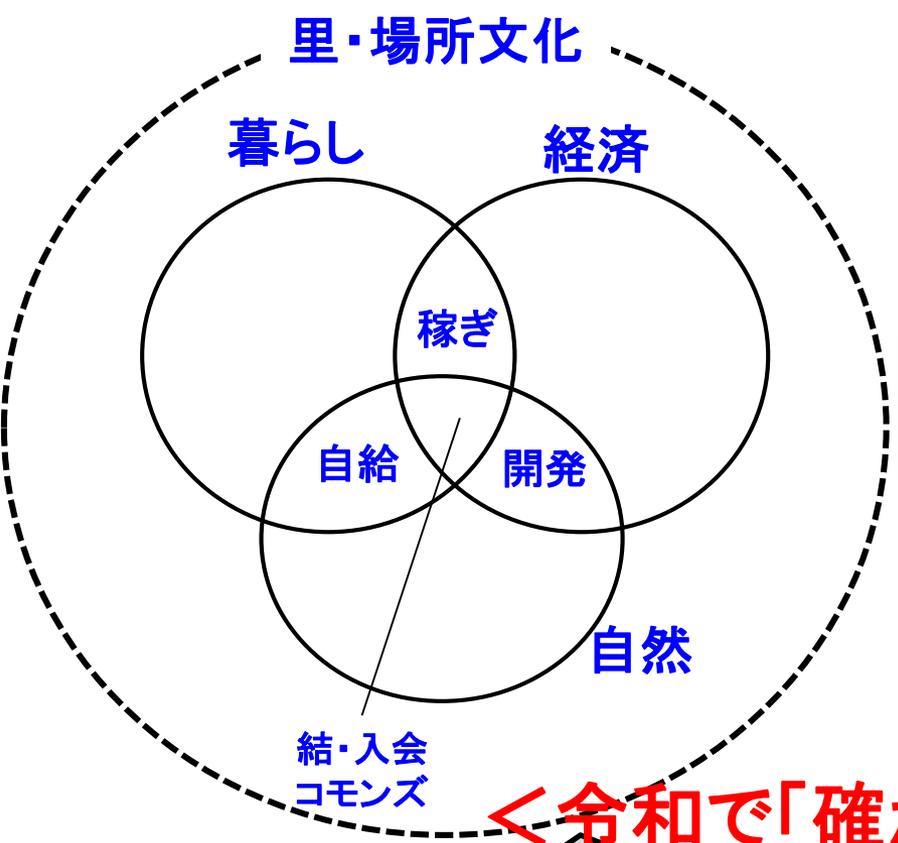
「新結合」

おわりに

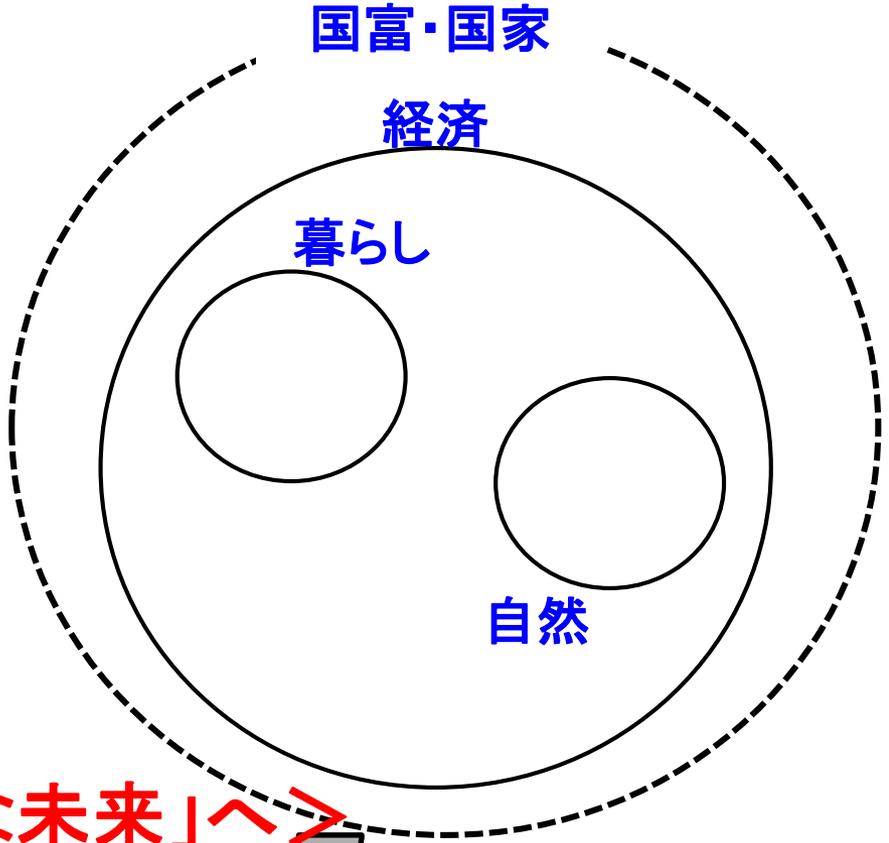
令和時代の地方創生のアプローチ

# 経済を「自然」と「暮らし」の中に埋め戻すこと！ ～令和は「自然、暮らし、いのちが主役へ！」～

<過去>



<現在>



<令和で「確かな未来」へ>  
埋め戻し

# ローカル軸を起点にグローバルへ

グローバル(G)

効率、規模、大量生産・消費  
もの、成長、利潤拡大、  
稼ぎ、個人主義、自由、均一  
労働生産性、進化、

アベノミツ  
クス！

大都市  
東京・大阪・名古屋

政令市  
札幌・仙台・福岡  
他

中核市  
連携中核都市圏

中心市  
定住自立圏

地方市・町村  
過疎集落等

資本の論理  
冷たいお金  
フロー経済

昭和～平成時代の  
地域活性化アプローチ  
(まち・ひと・しごと)

手間、心の豊かさ、家業、  
自然との共生、100年後、循環、  
コミュニティー、利他、繋がり、  
労働集約性(資源効率性)、多様

ローカル(L)

「グローバル化による強い経済」  
を叫ぶのではなく、「健やかで美しい暮らし」を自立的・内発的に創り、  
世界に誇るいのち輝くローカル社会と人と自然との豊かな共生の新たな形を蘇らせる！

非貨幣・いのち  
温かなお金  
ストック重視

令和時代の地域活性化  
(ローカルSDGSの実現  
<エコビレッジ構想、  
地域循環共生圏等>)

# 令和元年ローカルサミットNEXTin南砺



## ■ 開催日 及び 場所

令和元年 10月26日(土)

### 城端別院 善徳寺

(富山県南砺市城端405)

- 南砺市営バス(なんバス)「城端別院善徳寺前」下車 徒歩1分
- 世界遺産バス「城端曳山会館」下車 徒歩2分
- JR城端線「城端駅」下車 徒歩10分

令和元年 10月27日(日)

### 南砺市城端伝統芸能会館 じょうはな座

(富山県南砺市城端1046)

- 南砺市営バス(なんバス)「城端庁舎じょうはな座前」下車 徒歩1分
- 世界遺産バス「城端庁舎前」下車 徒歩1分
- JR城端線「城端駅」下車 徒歩15分

## ■ 参加費

- 南砺市外からの参加者 14,000円
- 南砺市内からの参加者 8,000円
- 学生(高校生以下を除く) 7,000円
- 高校生以下 無料

※上記参加費は全日程参加の場合です。  
詳細は下記参加申込み欄に記載のローカルサミットホームページからご確認ください。

## ■ 主催

令和元年ローカルサミットNEXTin南砺実行委員会

## ■ 共催

- 一般財団法人南砺幸せ未来基金
- 一般社団法人なんと未来支援センター
- 一般社団法人場所文化フォーラム
- 南砺市

## ■ 協賛

- NPO法人ものづくり生命文明機構
- NPO法人健康医療開発機構



## プログラム

# 令和元年 ローカルサミット NEXTin南砺

開催日 令和元年

10月26日(土)・27日(日)

場所 城端別院 善徳寺 南砺市城端伝統芸能会館 じょうはな座



### 10月26日(土) 城端別院 善徳寺

- 11:00 JR城端駅集合
- 11:00~12:30 エコビレッジ関係施設見学ツアー
- 12:30~13:15 昼食(南砺市クリエイタープラザ 桜クリエ)
- 13:30~ 受付(城端別院善徳寺)
- 14:00~14:10 開会宣言・挨拶
- 14:10~15:55 南砺の取り組み紹介と基調講演  
田中幹夫氏(南砺市長)  
太田浩史氏(大福寺住職)  
中井徳太郎氏(環境省総合環境政策統括官)  
藻谷浩介氏(農日本総合研究所首席研究員)
- 16:00~18:00 分科会(メインテーマ:「世界に誇る一流の田舎」とは)
- 18:10~20:10 大懇親会
- 20:10~21:00 宿舍チェックイン等
- 21:00~ 二次会

### 10月27日(日) 南砺市城端伝統芸能会館じょうはな座

- 9:00~10:00 分科会報告等
- 10:00~12:20 大討論会(有識者、志民)
- 12:20~12:30 閉会宣言・挨拶
- 13:30~16:50 南砺市内視察ツアー

#### 参加申込み

ローカルサミットホームページ  
(下記URLまたはQRコード)から  
お願いします  
<http://www.lsnnext.jp/>



#### お問い合わせ

南砺市外の方

ローカルサミット事務局

Mail:royji615@gmail.com

南砺市内の方

南砺市エコビレッジ推進課

〒932-0292 富山県南砺市井波520

Tel 0763-23-2050/Fax 0763-82-5101



主催/令和元年ローカルサミットNEXTin南砺実行委員会

共催/(一財)南砺幸せ未来基金、(一社)なんと未来支援センター、(一社)場所文化フォーラム、南砺市 協賛/NPO法人ものづくり生命文明機構、NPO法人健康医療開発機構

**1000年後に残る人工物は、  
1000年前からあったもの。  
先祖と土から授かったもの。  
土徳が育んでくれたものです。**

**それは田畑、寺社、水路！**

**合掌造りに散居村も残るのでは。**

**でも都会は残いません。**

二流

共通点

一流の田舎は  
「住む理由」を感じられる田舎!

人口が年々減少していく時代、  
人がなんとなく住む田舎の未来は暗い。

→住む人が堂々と「住む理由」  
を説明できる田舎が一流の田舎

なぜここを選び、暮らすのか  
住んでいる人の「住む理由」を  
良いものにして行こう!

「何もない」が口癖

# 健やかで美しい暮らしをどう次世代に繋ぐか？ ～「美の法門」が意味するところ！～



娘が初めて見る  
人形は、代々の娘を  
ずっと見て来たんだ。



ものがあふれる前に、  
いのちがあふれる  
時代がありました。

# 暮しが仕事 仕事は暮し

# 100年後(3世代後)の未来に向けて

現在から未来へいのちを営々とつなぐ  
歴史認識と責任を持たなくてはならない！

真の未来志向とは、  
人間中心主義からの脱却であり、  
100年後に何を残すかを考えること！

人類が生き残るには、  
地球、そして他のいのちとの共棲の世界へ  
我々は、これらを今一度ローカルから紡ぎ直す！